

基本計画書

基本計画									
事項	記入欄						備考		
計画の区分	研究科の専攻の設置								
フリガナ設置者	コクリツダクカクホクシン フクオキョウイクダクカク 国立大学法人 福岡教育大学								
フリガナ大学の名称	フクオキョウイクダクカクダク 福岡教育大学大学院 (Graduate School of Teacher Education Fukuoka)								
大学本部の位置	福岡県宗像市赤間文教町1番1号								
大学の目的	福岡教育大学大学院は、学部における一般的並びに専門的な教養あるいは教職経験の基礎の上に、広い視野に立って精深な学識を授け、学校教育に関する学問を創出・展開する研究能力を養い、初等・中等学校の教育実践の水準を向上させる高度の専門的能力を養成することを目的とする。								
新設学部等の目的	学校教育の多様な課題に対して、実践的に取り組むことのできる高度な専門性と強靱な精神及び豊かな人間性を備えた専門職業人としての教員を養成する。 これを発展させるために、本専攻に教科指導領域を加え、新学習指導要領や学校現場の課題等に対応できる各学校種（小・中・高）の教員として必要な高度な実践力・リーダー性を身に付けるために拡充を行う。								
新設学部等の概要	新設学部等の名称	修業年限	入学定員	編入学定員	収容定員	学位又は称号	開設時期及び開設年次	所在地	【基礎となる学部】教育学部 教職大学院
	教育学研究科 [Graduate School of Education] 教職実践専攻 [Division of Professional Practice in Education]	年	人	年次人	人	教職修士（専門職） 【Master of Education (Professional)】	令和3年4月 第1年次	福岡県宗像市赤間文教町1番1号	
	計		50 (40)	—	100 (80)				
同一設置者内における変更状況（定員の移行、名称の変更等）	教育学研究科教育科学専攻（廃止）（△40） ※令和3年4月学生募集停止								
教育課程	新設学部等の名称	開設する授業科目の総数				卒業要件単位数			
	教育学研究科 教職実践専攻	講義	演習	実験・実習	計				
		15 科目	121 科目	21 科目	157 科目	46 単位			
教員組織の概要	学部等の名称		専任教員等					兼任教員等	
			教授	准教授	講師	助教	計		助手
	新設	教育学研究科 教職実践専攻	人	人	人	人	人	人	
			24 (24)	1 (1)	1 (1)	0 (0)	26 (26)	0 (0)	64 (64)
	計		24 (24)	1 (1)	1 (1)	0 (0)	26 (26)	0 (0)	— (—)
既設	該当なし	— (—)	— (—)	— (—)	— (—)	— (—)	— (—)	— (—)	
計		— (—)	— (—)	— (—)	— (—)	— (—)	— (—)	— (—)	
合計		24 (24)	1 (1)	1 (1)	0 (0)	26 (26)	0 (0)	— (—)	

教員以外の職員の概要	職 種		専 任	兼 任	計	大学全体				
	事 務 職 員		94 (94)	55 (55)	149 (149)					
	技 術 職 員		12 (12)	0 (0)	12 (12)					
	図 書 館 専 門 職 員		4 (4)	3 (3)	7 (7)					
	そ の 他 の 職 員		0 (0)	1 (1)	1 (1)					
計		110 (110)	59 (59)	169 (169)						
校 地 等	区 分	専 用	共 用	共用する他の学校等の専用	計					
	校 舎 敷 地	183,860 m ²	0 m ²	0 m ²	183,860 m ²					
	運 動 場 用 地	92,053 m ²	0 m ²	0 m ²	92,053 m ²					
	小 計	275,913 m ²	0 m ²	0 m ²	275,913 m ²					
	そ の 他	8,073 m ²	0 m ²	0 m ²	8,073 m ²					
合 計		283,986 m ²	0 m ²	0 m ²	283,986 m ²					
校 舎		専 用	共 用	共用する他の学校等の専用	計					
		48,539 m ² (48,539 m ²)	0 m ² (0 m ²)	0 m ² (0 m ²)	48,539 m ² (48,539 m ²)					
教室等	講義室	演習室	実験実習室	情報処理学習施設	語学学習施設	大学全体				
	44 室	63 室	60 室	7 室 (補助職員 0人)	6 室 (補助職員 0人)					
専 任 教 員 研 究 室		新設学部等の名称		室 数						
		教育学研究科 教職実践専攻		26 室						
図 書 ・ 設 備	新設学部等の名称	図書 〔うち外国書〕 冊	学術雑誌 〔うち外国書〕 種	電子ジャーナル 〔うち外国書〕	視聴覚資料 点	機械・器具 点	標本 点	専攻単位での特定不能なため、大学全体の数		
	教職実践専攻	530,421 [112,999]	8,161 [2,061]	6,190 [6,190]	1,876	493	0			
	計	530,421 [112,999]	8,161 [2,061]	6,190 [6,190]	1,876	493	0			
図 書 館	面積		閲覧座席数		収 納 可 能 冊 数			大学全体		
	4,516 m ²		367		530,000					
体 育 館	面積		体育館以外のスポーツ施設の概要					大学全体		
	2,274 m ²		野球場 1面		テニスコート 5面					
経 費 の 見 積 り 及 び 維 持 方 法 の 概 要	経 費 の 見 積 り	区 分	開設前年度	第1年次	第2年次	第3年次	第4年次	第5年次	第6年次	国費（運営費交付金）による
		教員1人当り研究費等								
		共同研究費等								
		図書購入費								
	設備購入費									
学生1人当り納付金		第1年次	第2年次	第3年次	第4年次	第5年次	第6年次			
		千円	千円	千円	千円	千円	千円			
学生納付金以外の維持方法の概要										

大学等の名称	福岡教育大学								所在地	
	学部等の名称	修業年限	入学定員	編入学定員	収容定員	学位又は称号	定員超過率	開設年度		
既設大学等の状況	教育学部	年	人	年次人	人		倍		福岡県宗像市赤間文教町1番1号	
	初等教育教員養成課程	4	385	—	1,540	学士（教育学）	1.02	平成11年度		
	中等教育教員養成課程	4	170	—	680	学士（教育学）	1.04	平成11年度		
	特別支援教育教員養成課程	4	60	—	240	学士（教育学）	0.98	平成20年度		
	共生社会教育課程	4	—	—	—	学士（福祉社会教育） 学士（国際共生教育）	—	平成25年度		
	環境教育課程	4	—	—	—	学士（環境教育）	—	平成25年度		
	芸術課程	4	—	—	—	学士（音楽） 学士（芸術）	—	平成25年度		
	教育学研究科									同上
	教育科学専攻	2	—	—	—	修士（教育学）	—	平成21年度		
教職実践専攻	2	40	—	80	教職修士（専門職）	0.93	平成21年度			
附属施設の概要	附属学校は、教育基本法（平成18年法律第120号）及び学校教育法（昭和22年法律第26号）に基づいて、それぞれ学校教育を行い、学部・大学院等における児童、生徒又は幼児の教育又は保育に関する研究に協力し、及び学部の計画に従って学生の教育実習の実施にあたることを目的とする。									
	名称	所在地			設置年月	規模等				
	附属福岡小学校	福岡県福岡市中央区西公園12番1号			昭和26年4月	土地：24,632㎡ 建物：5,864㎡				
	附属小倉小学校	福岡県北九州市小倉北区下富野3丁目13番1号			昭和26年4月	土地：25,000㎡ 建物：5,036㎡				
	附属久留米小学校	福岡県久留米市南1丁目3番1号			昭和26年4月	土地：26,568㎡ 建物：5,436㎡				
	附属福岡中学校	福岡県福岡市中央区西公園12番1号			昭和26年4月	土地：23,752㎡ 建物：6,898㎡				
	附属小倉中学校	福岡県北九州市小倉北区下富野3丁目12番1号			昭和26年4月	土地：28,238㎡ 建物：6,064㎡				
	附属久留米中学校	福岡県久留米市南1丁目3番1号			昭和26年4月	土地：39,406㎡ 建物：5,147㎡				
	附属幼稚園	福岡県宗像市赤間文教町1番30号			昭和46年4月	土地：10,760㎡ 建物：676㎡				

(注)

- 1 共同学科等の認可の申請及び届出の場合、「計画の区分」、「新設学部等の目的」、「新設学部等の概要」、「教育課程」及び「教員組織の概要」の「新設分」の欄に記入せず、斜線を引くこと。
- 2 「教員組織の概要」の「既設分」については、共同学科等に係る数を除いたものとする。
- 3 私立の大学又は高等専門学校等の収容定員に係る学則の変更の届出を行おうとする場合は、「教育課程」、「教室等」、「専任教員研究室」、「図書・設備」、「図書館」及び「体育館」の欄に記入せず、斜線を引くこと。
- 4 大学等の廃止の認可の申請又は届出を行おうとする場合は、「教育課程」、「校地等」、「校舎」、「教室等」、「専任教員研究室」、「図書・設備」、「図書館」、「体育館」及び「経費の見積もり及び維持方法の概要」の欄に記入せず、斜線を引くこと。
- 5 「教育課程」の欄の「実験・実習」には、実技も含むこと。
- 6 空欄には、「—」又は「該当なし」と記入すること。

教育課程等の概要															
(教育学研究科教職実践専攻)															
科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考	
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手		
共通科目	教育課程の編成・実施	現代社会における教育の課題	1前	2				○		7	1	1			オムニバス・共同 共同 兼1 オムニバス
		カリキュラム・マネジメントの理論と実践	1後	2				○		2					
		自立活動の理論と心のバリアフリーの実践	1後	2				○		1					
		小計（3科目）	—	6	0	0		—		9	1	1	0	0	
	教科等の実践的な指導方法	授業分析・リフレクションの理論と実践	1後	2				○		1					共同
		教科教育実践と指導法の改善	1前			2		○		6	1	1			
		小計（2科目）	—	2	0	2		—		6	1	1	0	0	
	生徒指導・教育相談	生徒指導の理論と実践	1前	2				○		2					共同 兼0 オムニバス・共同 兼0
		学校カウンセリングの方法	1前	2				○		1					
		障害のある児童生徒の理解と合理的配慮	1前	2				○		2					
		小計（3科目）	—	6	0	0		—		5	0	0	0	0	
	学級経営・学校経営	教育改革の動向と学校経営・学級経営の課題	1後	2				○		2					共同 兼1 兼1
		学校における統計基礎	1前			2		○							
		小計（2科目）	—	2	0	2		—		2	0	0	0	0	
	学校教員と教員の在り方	スクールコンプライアンスと教職プロフェッションの開発	1前	2				○		2					共同 0
		小計（1科目）	—	2	0	0		—		2	0	0	0	0	
	教育実践力開発コース専門科目	学級経営のPDCAと学習環境デザイン	1前		2			○		1					オムニバス・共同 共同 オムニバス・共同 共同 オムニバス・共同 兼4 オムニバス・共同 共同 オムニバス 共同 兼3 オムニバス 兼2 共同 兼1 兼3 共同・オムニバス オムニバス 兼3 オムニバス 兼4 共同 兼5 共同・オムニバス 兼1 オムニバス 兼1 共同 兼3 オムニバス オムニバス・共同 兼1 兼1 オムニバス 兼1 共同 兼3 オムニバス
		学級経営の実際と分析	2前		2			○		1					
未来をつくる教師の力量		1後		2			○		7	1	1				
教師の成長とセルフスタディ		2前		2				○	1						
教育連携フィールドワーク		2後		2				○	1						
家庭・地域・学校の連携・協働の構築		2後		2				○	2						
授業づくりの理論と質的研究の基礎		1前		2				○	2	1					
特別活動・総合的な学習の時間の実践と課題		1前		2				○	1						
道徳教育の実践と課題		1後		2				○			1				
教育の情報化における課題と実践		2前		2				○	1						
子供の深い学びを促すディスカッションのあり方と授業づくり		2後		2				○	2						
教科等における授業実践と評価の研究Ⅰ（国語）		1前		2				○	2						
教科等における授業実践と評価の研究Ⅰ（算数）		1後		2				○	2						
教科等における授業実践と評価の研究Ⅱ（社会）		2前		2				○	1	1					
教科等における授業実践と評価の研究Ⅱ（算数）		2前		2				○	2						
教科等における授業実践と評価の研究Ⅱ（理科）		2前		2				○	1						
教科等における授業実践と評価の研究Ⅱ（英語）		2前		2				○							
教科等における授業実践と評価の研究Ⅱ（体育）		2前		2				○							
教科等における授業実践と評価の研究Ⅲ（国語）		2後		2				○	1						
教科等における授業実践と評価の研究Ⅲ（社会）		2後		2				○	1	1					
教科等における授業実践と評価の研究Ⅲ（理科）		2後		2				○	1						
教科等における授業実践と評価の研究Ⅲ（英語）		2後		2				○	1						
教科等における授業実践と評価の研究Ⅲ（体育）		2後		2				○	1						
教育実践の理論と授業づくり（国語科）		1前		2				○	1						
教育実践の理論と授業づくり（社会科）		1前		2				○	2	1					
教育実践の理論と授業づくり（数学科）		1前		2				○	1						
教育実践の理論と授業づくり（理科）		1前		2				○							
教育実践の理論と授業づくり（英語科）	1前		2				○	2							
教育実践の理論と授業づくり（保健体育科）	1前		2				○	1							
授業実践と評価の研究Ⅰa（国語科）	1後		2				○								
授業実践と評価の研究Ⅰa（社会科）	1後		2				○		1						
授業実践と評価の研究Ⅰa（数学科）	1後		2				○	1							
授業実践と評価の研究Ⅰa（理科）	1後		2				○								

教育実践力開発コース専門科目	授業実践と評価の研究Ⅰa(英語科)	1後	2	○		2				兼1 共同	
	授業実践と評価の研究Ⅰa(保健体育科)	1後	2		○					兼1	
	授業実践と評価の研究Ⅰb(国語科)	2前	2		○	1					
	授業実践と評価の研究Ⅰb(社会科)	2前	2		○	2	1			兼7 オムニバス・共同	
	授業実践と評価の研究Ⅰb(数学科)	2前	2		○	2				共同	
	授業実践と評価の研究Ⅰb(理科)	2前	2		○	1				兼3 オムニバス	
	授業実践と評価の研究Ⅰb(英語科)	2前	2		○	2				オムニバス・共同	
	授業実践と評価の研究Ⅰb(保健体育科)	2前	2		○	1				兼1 共同	
	授業実践と評価の研究Ⅱ(国語科)	2前	2		○	1				兼2 オムニバス・共同	
	授業実践と評価の研究Ⅱ(社会科)	2前	2		○		1			兼4 オムニバス	
	授業実践と評価の研究Ⅱ(数学科)	2前	2		○					兼6 オムニバス・共同	
	授業実践と評価の研究Ⅱ(理科)	2前	2		○	1				兼13 共同・オムニバス	
	授業実践と評価の研究Ⅱ(英語科)	2前	2		○	2				オムニバス・共同	
	授業実践と評価の研究Ⅱ(保健体育科)	2前	2		○	1				兼2 共同・オムニバス	
	授業実践と評価の研究Ⅲ(国語科)	2後	2		○	1				兼3 オムニバス・共同	
	授業実践と評価の研究Ⅲ(社会科)	2後	2		○	1				兼3 オムニバス	
	授業実践と評価の研究Ⅲ(数学科)	2後	2		○	1				兼5 オムニバス・共同	
	授業実践と評価の研究Ⅲ(理科)	2後	2		○	1				兼13 共同・オムニバス	
	授業実践と評価の研究Ⅲ(英語科)	2後	2	○		1				兼1 共同	
	授業実践と評価の研究Ⅲ(保健体育科)	2後	2		○	1				兼2 オムニバス・共同	
	授業実践と評価の研究Ⅳ(国語科)	2後	2		○	1				兼2 オムニバス・共同	
	授業実践と評価の研究Ⅳ(社会科)	2後	2		○	2				兼4 オムニバス・共同	
	授業実践と評価の研究Ⅳ(数学科)	2後	2		○					兼6 オムニバス・共同	
授業実践と評価の研究Ⅳ(理科)	2後	2		○	1				兼13 共同・オムニバス		
授業実践と評価の研究Ⅳ(英語科)	2後	2	○		1				兼2 共同		
授業実践と評価の研究Ⅳ(保健体育科)	2後	2		○	1				兼1 共同		
教科教育における授業実践の研究	1後	2		○	10	1	1			兼4	
小計(60科目)		0	120	0	—	17	1	1	0	0	兼49
スクーラーリーダーシップ開発コース専門科目	カリキュラムマネジメントのPDCA	1後	2		○	2					共同
	OJTとチームマネジメント	1後	2		○	2					共同
	教科教育の理論と実践Ⅰ(国語科)	1前	2		○						兼1
	教科教育の理論と実践Ⅰ(社会科)	1前	2		○	2	1				兼7 オムニバス・共同
	教科教育の理論と実践Ⅰ(数学科)	1前	2		○	2					共同
	教科教育の理論と実践Ⅰ(理科)	1前	2	○							兼3 オムニバス・共同
	教科教育の理論と実践Ⅰ(英語科)	1前	2		○	2					オムニバス・共同
	教科教育の理論と実践Ⅰ(保健体育科)	1前	2		○	1					兼1 共同
	教科教育の理論と実践Ⅱ(国語科)	1後	2		○						兼1
	教科教育の理論と実践Ⅱ(社会科)	1後	2		○	2	1				兼3 オムニバス・共同
	教科教育の理論と実践Ⅱ(数学科)	1後	2		○	1					兼1 共同
	教科教育の理論と実践Ⅱ(理科)	1後	2		○						兼3 オムニバス・共同
	教科教育の理論と実践Ⅱ(英語科)	1後	2		○	1					兼1 共同・オムニバス
	教科教育の理論と実践Ⅱ(保健体育科)	1後	2		○	1					兼1 共同
	教科内容研究と教材開発Ⅰ(国語科)	1前	2		○	1					兼1 オムニバス・共同
	教科内容研究と教材開発Ⅰ(社会科)	1前	2		○	1					兼3 オムニバス
	教科内容研究と教材開発Ⅰ(数学科)	1前	2		○						兼6 オムニバス・共同
	教科内容研究と教材開発Ⅰ(理科)	1前	2		○	1					兼13 オムニバス・共同
	教科内容研究と教材開発Ⅰ(英語科)	1前	2	○		1					兼1 共同
	教科内容研究と教材開発Ⅰ(保健体育科)	1前	2		○	1					兼2 オムニバス・共同
	教科内容研究と教材開発Ⅱ(国語科)	1後	2		○	1					兼2 オムニバス・共同
	教科内容研究と教材開発Ⅱ(社会科)	1後	2		○	1					兼3 オムニバス・共同
	教科内容研究と教材開発Ⅱ(数学科)	1後	2		○	1					兼5 オムニバス・共同
	教科内容研究と教材開発Ⅱ(理科)	1後	2		○	1					兼13 オムニバス・共同
	教科内容研究と教材開発Ⅱ(英語科)	1後	2	○		1					兼2 共同
	教科内容研究と教材開発Ⅱ(保健体育科)	1後	2		○	1					兼2 オムニバス・共同
	教科内容研究と教材開発Ⅲ(国語科)	1後	2		○	1					兼2 オムニバス・共同
	教科内容研究と教材開発Ⅲ(社会科)	1後	2		○		1				兼3 オムニバス
	教科内容研究と教材開発Ⅲ(数学科)	1後	2		○						兼3 オムニバス・共同
	教科内容研究と教材開発Ⅲ(理科)	1後	2		○	1					兼13 オムニバス・共同
教科内容研究と教材開発Ⅲ(英語科)	1後	2	○		1					兼1 共同	
教科内容研究と教材開発Ⅲ(保健体育科)	1後	2		○	1					兼1 共同	

		教科内容研究と教材開発Ⅳ（国語科）	2前	2			○		1					兼2	オムニバス・共同	
		教科内容研究と教材開発Ⅳ（社会科）	2前	2			○		2					兼3	オムニバス・共同	
		教科内容研究と教材開発Ⅳ（数学科）	2前	2			○							兼4	オムニバス・共同	
		教科内容研究と教材開発Ⅳ（理科）	2前	2			○		1					兼10	オムニバス・共同	
		教科内容研究と教材開発Ⅳ（英語科）	2前	2		○			1					兼2	共同	
		教科内容研究と教材開発Ⅳ（保健体育科）	2前	2			○		2					兼1	オムニバス・共同	
		チーム学校と学校組織マネジメント	1通	2		○			6						オムニバス	
		教職員の人材育成マネジメント	1前	2			○		1							
		学校間連携・地域連携マネジメント	1後	2			○		1							
		行動連携のための教育臨床心理学	2後	2			○							兼1		
		予防・開発的教育相談	1前	2			○		1							
		非行臨床と司法の基礎	1前	2		○								兼1	隔年	
		学習指導支援の理論と実践	1後	2			○		1							
		発達援助の理論と実践	1後	2		○			1							
		特別支援教育における資源の活用と連携	2前	2			○		2						共同	
		学級における特別支援教育のケース研究	2後	2			○		2						共同	
		子供のキャリア発達支援	2前	2			○		1							
		教育的ニーズの把握と評価	1後	2			○		1							
		心理教育的援助サービスシステム化の理論と実践A	2前	2			○		1							
		心理教育的援助サービスシステム化の理論と実践B	2前	2			○		1							
		障害の理論と実践	1後	2			○		2					兼6	オムニバス	
		学校の危機管理と教育法規	1後	2			○		1							
		学校評価と学校改善	2前	2			○		1							
		学校組織開発とデータ分析	1前	2			○		1						共同	
		地域教育資源の開発とワークショップ	2前	2			○		1							
		小計（57科目）		0	114	0	—		23	1	0	0	0	兼55		
課題演習	教育実践力開発コース	課題演習Ⅰ-1	1前	1			○		20	1	1				共同	
		課題演習Ⅰ-2	1後	1			○		20	1	1				共同	
		課題演習Ⅰ-3	2前	1			○		20	1	1				共同	
		課題演習Ⅰ-4	2後	1			○		20	1	1				共同	
			小計（4科目）		0	4	0	—	20	1	1	0	0	0		
スクールリーダー開発コース	課題演習Ⅱ-1	1前	1			○		19	1						共同	
	課題演習Ⅱ-2	1後	1			○		19	1						共同	
	課題演習Ⅱ-3	2前	1			○		19	1						共同	
	課題演習Ⅱ-4	2後	1			○		19	1						共同	
		小計（4科目）		0	4	0	—	19	1	0	0	0	0			
学校における実習科目	教育実践力開発コース	TA実践インターンシップⅠ	1前	2			○		10	1	1				共同	
		TA実践インターンシップⅡ	1後	2			○		10	1	1				共同	
		TA実践インターンシップⅢ	2前	2			○		10	1	1				共同	
		TA実践インターンシップⅣ	2後	2			○		10	1	1				共同	
		教育実践コラボレーション実習	2前	2			○		10	1	1				共同	
			小計（5科目）		0	10	0	—	10	1	1	0	0	0		
	スクールリーダー開発コース	異校種実習	1前	2			○		7							共同
		教科指導基礎実習	1後	3			○		7							共同
		教科指導向上実習Ⅰ	2前	3			○		7							共同
		教科指導向上実習Ⅱ	2後	2			○		7							共同
		授業研究実習	1前	2			○		10							共同
		特別支援教育実践実習	1前	2			○		6							共同
		学校カウンセリング実習A	1後	3			○		3							共同
		学校カウンセリング実習B	1後	3			○		3							共同
学校適応アセスメント実習		2前	3			○		3							共同	
学校適応支援システム化実習		2後	2			○		3							共同	
特別支援教育アセスメント実習		2前	3			○		3							共同	
特別支援教育システム化実習	2後	2			○		3							共同		
教育連携コラボレーション実習	1前	2			○		4							共同		
学校組織マネジメント実習Ⅰ	1後	2			○		4							共同		
学校組織マネジメント実習Ⅱ	2前	2			○		4							共同		
学校組織マネジメント実習Ⅲ	2後	2			○		4							共同		
		小計（16科目）	—	0	38	0	—	15	0	0	0	0	0			

合計 (157 科目)	—	18	290	4	—	24	1	1	0	0	兼64
学位又は称号	教職修士 (専門職)	学位又は学科の分野									
卒業要件及び履修方法						授業期間等					
<p>《履修基準》 共通科目18単位、コース別科目14単位、課題演習科目4単位、実習科目10単位</p> <p>教育実践力開発コース： 共通科目18単位 (必修18) コース別科目14単位 (必修10, 選択必修2, 選択2) 課題演習科目4単位 (必修4) 実習科目10単位 (必修10)</p> <p>スクールリーダーシップ開発コース： [教科教育リーダープログラム] 共通科目18単位 (必修18) コース別科目14単位 (必修12, 選択2) 課題演習科目4単位 (必修4) 実習科目10単位 (必修10) [学校適応支援リーダープログラム] 共通科目18単位 (必修18) コース別科目14単位 (必修10, 選択必修2, 選択2) 課題演習科目4単位 (必修4) 実習科目10単位 (必修10) [特別支援教育推進コーディネータープログラム] 共通科目18単位 (必修18) コース別科目14単位 (必修10, 選択必修2, 選択2) 課題演習科目4単位 (必修4) 実習科目10単位 (必修10) [学校運営リーダープログラム] 共通科目18単位 (必修18) コース別科目14単位 (必修14) 課題演習科目4単位 (必修4) 実習科目10単位 (必修10)</p> <p>【初等教育高度実践力特別プログラム】 1年次に学部にて小学校教員免許状取得に必要な単位を取得し、2年次以降は学部での教育実習関係の単位取得、介護等体験の実施 (該当者のみ)、大学院の授業については、「初等教科教育高度実践力プログラム」の科目又は「教職教育高度実践力プログラム」の科目を選択履修する。</p> <p>【教育実践力開発コース専門科目の選択必修科目】 ・初等教科教育高度実践力プログラム及び中等教科教育高度実践力プログラムは、「特別活動・総合的な学習の時間の実践と課題」、「道徳教育の実践と課題」から、2単位を選択必修とする。 ・教職教育高度実践力プログラムは、「教師の成長とセルフスタディ」、「教育連携フィールドワーク」、「家庭・地域・学校の連携・協働の構築」、「教育の情報化における課題と実践」から、2単位を選択必修とする。</p> <p>※中等教科教育高度実践力プログラムにおいて、(中学校)もしくは(高等学校)を選択した際に、中学校は、授業実践と評価の研究Ⅱ(国語科),(社会科),(数学科),(理科),(英語科),(保健体育科)から、2単位を選択必修とする。高等学校は、授業実践と評価の研究Ⅰa(国語科),(社会科),(数学科),(理科),(英語科),(保健体育科)から、2単位を選択必修とする。</p> <p>【スクールリーダーシップ開発コース専門科目の選択必修科目】 学校適応支援リーダープログラム及び特別支援教育推進コーディネータープログラムは、「OJTとチームマネジメント」、「チーム学校と学校組織マネジメント」から、2単位を選択必修とする。</p>						1 学年の学期区分		2 期			
						1 学期の授業期間		1 5 週			
						1 時限の授業時間		9 0 分			

(注)

- 1 学部等, 研究科等若しくは高等専門学校等の学科の設置又は大学における通信教育の開設の届出を行おうとする場合には, 授与する学位の種類及び分野又は学科の分野が同じ学部等, 研究科等若しくは高等専門学校等の学科 (学位の種類及び分野の変更等に関する基準 (平成十五年文部科学省告示第三十九号) 別表第一備考又は別表第二備考に係るものを含む。) についても作成すること。
- 2 私立の大学若しくは高等専門学校の収容定員に係る学則の変更の認可を受けようとする場合若しくは届出を行おうとする場合, 大学等の設置者の変更の認可を受けようとする場合又は大学等の廃止の認可を受けようとする場合若しくは届出を行おうとする場合は, この書類を作成する必要はない。
- 3 開設する授業科目に応じて, 適宜科目区分の枠を設けること。
- 4 「授業形態」の欄の「実験・実習」には, 実技も含むこと。

教育課程等の概要														
(教育学研究科教職実践専攻)【既設】														
科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手	
共通科目	現代社会における教育の課題	1前	2				○		7	1	1			
	現在の教育課題とカリキュラム・マネジメント	1後	2				○		2					
	授業分析・リフレクションの理論と実践	1後	2				○		1					
	教科教育実践と指導法の改善	1前	2				○		6	1	1			
	生徒指導の理論と実践	1前	2				○		2					
	学校カウンセリングの方法	1前	2				○		1					
	教育統計基礎	1前		2		○								兼1 集中
	教育改革の動向と学校経営の課題	1後	2				○		2					
	スクールコンプライアンスと教職プロフェッションの開発	1前	2				○		2					
	学級における特別支援教育の課題と実践	1後	2				○		1					
	学級における特別支援教育のケース研究	2後			2		○		1					
小計(11科目)	—		18	0	4		—		16	1	1	0	0	兼1
教育実践力開発コース専門科目	学級経営のPDCAと学習環境デザイン	1前		2			○		1					
	特別活動の理論と実践	1後		2			○		1					
	学級経営の実際と分析	2前		2			○		1					
	学校マネジメントの理論と実践	2後		2			○		1					
	授業構築の理論と実践	1前		2			○		7	1	1			
	教育実践研究の理論と授業分析トライアル	1後		2			○		2	1				
	道徳・総合的な学習の時間の理論と実践	1後		2			○				1			
	教育の情報化における課題と実践	2前		2			○		1					
	教科における授業実践の研究	2後		2			○		8	1	1			兼10
	未来をつくる教師の力量	1後		2			○		7	1	1			
	教育連携フィールドワーク	2後		2			○		2					集中
	保護者対応・地域連携の課題と実践	2前		2			○		1					
	教師の成長と省察力	2後		2			○		1					
	課題演習I-1	1前		1			○		7	1	1			
	課題演習I-2	1後		1			○		7	1	1			
課題演習I-3	2前		1			○		7	1	1				
教育実践力開発プレゼンテーション	2後		1			○		7	1	1				
小計(17科目)	—		0	30	0	—			10	1	1	0	0	兼10
生徒指導・教育相談リーダーコース専門科目	予防・開発的教育相談	1前		2			○		1					
	非行臨床と司法の基礎	1前		2			○							兼1 集中 隔年
	行動連携のための教育臨床心理学	2後		2			○							兼1
	生徒指導の機能を生かした学習指導の支援	1後		2			○		1					
	発達援助の理論と実践	1後		2		○								兼1 集中
	特別支援教育における資源の活用と連携	2前		2			○		1					
	学校運営基礎演習	1通		2			○		6					集中
	教育的ニーズの把握と評価	1後		2			○		1					
	心理教育的援助サービスの理論と実践	2前		2			○		1					
	子どものキャリア発達支援	2前		2			○		1					
	課題演習II-1	1前		1			○		4					
	課題演習II-2	1後		1			○		4					
	課題演習II-3	2前		1			○		4					
	生徒指導・教育相談リーダープレゼンテーション	2後		1			○		4					
小計(14科目)	—		0	24	0	—			8	0	0	0	0	兼3

学校運営リーダーコース専門科目	学校運営基礎演習	1通		2			○		6						集中
	教育課程の編成・実施・評価	1後		2			○		2						
	校内研究の開発と組織化	1後		2			○		2						
	教職員の人材育成マネジメント	1前		2			○		1						
	学校の危機管理と教育法規	1後		2			○		1						
	学校評価と学校改善	2前		2			○		1						
	地域とともにある学校マネジメント	1後		2			○		1						
	地域教育資源の開発ワークショップ	2前		2			○		1						
	課題演習Ⅲ-1	1前		1			○		4						
	課題演習Ⅲ-2	1後		1			○		4						
	課題演習Ⅲ-3	2前		1			○		4						
	学校運営リーダープレゼンテーション	2後		1			○		4						
小計 (12科目)	—	0	20	0	—			6	0	0	0	0			
学校における実習科目	教育実践力開発コース	教育実践力開発実習	1前		4			○	7	1	1				兼3
		T A 実践インターンシップ I	2前		3			○	7	1	1				兼3
		教育実践コラボレーション実習	2前		2			○	7	1	1				
		T A 実践インターンシップ II	2後		3			○	7	1	1				兼3
	小計 (4科目)	—	0	12	0	—		7	1	1	0	0		兼3	
	生徒指導・教育相談リーダーコース	授業実践メンタリング基礎実習	1前		2			○	4						
		特別支援教育実践実習	1前		2			○	4						
		学校カウンセリング実習	1後		3			○	4						
		学校適応アセスメント実習	2前		3			○	4						
		学校適応支援実習	2後		2			○	4						
小計 (5科目)	—	0	12	0	—		4	0	0	0	0				
学校運営リーダーコース	学校適応支援実習	2後		2			○	4							
	教育連携コラボレーション実習	1前		2			○	4							
	学校組織マネジメント実習 I	1後		3			○	4							
	学校組織マネジメント実習 II	2前		3			○	4							
	学校組織マネジメント実習 III	2後		2			○	4							
小計 (5科目)	—	0	12	0	—		4	0	0	0	0				
合計 (68科目)		—	18	110	4	—		15	1	1				兼17	
学位又は称号		教職修士 (専門職)			学位又は学科の分野			教員養成関係							
卒業要件及び履修方法								授業期間等							
<small>(履修基準)</small> 共通科目18単位、コース別科目18単位、実習科目12単位 合計48単位 ○ 教育実践力開発コース専門科目のうち、「学級経営の実際と分析」、「学校マネジメントの理論と実践」、「教育実践研究の理論と授業分析トライアル」、「教育の情報化における課題と実践」、「教科における授業実践の研究」、「教育連携フィールドワーク」、「教師の成長と省察力」から、2単位を選択必修とする。 ○ 生徒指導・教育相談リーダーコース専門科目のうち、「予防・開発的教育相談」、「非行臨床と司法の基礎」、「特別支援教育における資源の活用と連携」、「学校運営基礎演習」、「心理教育的援助サービスの理論と実践」から、4単位を選択必修とする。 ○ 学校運営リーダーコース専門科目のうち、「学校運営基礎演習」、「地域教育資源の開発ワークショップ」から、2単位を選択必修とする。 <small>(履修科目の登録の上限：40単位 (年間) (実習単位は除く))</small>								1 学年の学期区分				2 期			
								1 学期の授業期間				1 5 週			
								1 時限の授業時間				9 0 分			

- 1 学部等、研究科等若しくは高等専門学校の学科の設置又は大学の学部若しくは大学院の研究科又は短期大学の学科における通信教育の開設の届出を行おうとする場合には、授与する学位の種類及び分野又は学科の分野が同じ学部等、研究科等若しくは高等専門学校の学科 (学位の種類及び分野の変更等に関する基準 (平成十五年文部科学省告示第三十九号) 別表第一備考又は別表第二備考に係るものを含む。) についても作成すること。
- 2 私立の大学の学部若しくは大学院の研究科又は短期大学の学科若しくは高等専門学校の収容定員に係る学則の変更の認可を受けようとする場合若しくは届出を行おうとする場合、大学等の設置者の変更の認可を受けようとする場合又は大学等の廃止の認可を受けようとする場合若しくは届出を行おうとする場合は、この書類を作成する必要はない。
- 3 開設する授業科目に応じて、適宜科目区分の枠を設けること。
- 4 「授業形態」の欄の「実験・実習」には、実技も含むこと。
- 5 「授業形態」の欄は、各授業科目について、該当する授業形態の欄に「○」を記入すること。ただし、専門職大学等又は専門職

学科を設ける大学若しくは短期大学の授業科目のうち、臨地実務実習については「実験・実習」の欄に「臨」の文字を、連携実務演習等については「演習」又は「実験・実習」の欄に「連」の文字を記入すること。

6 課程を前期課程及び後期課程に区分する専門職大学若しくは専門職大学の学部等を設置する場合又は前期課程及び後期課程に区分する専門職大学の課程を設置し、若しくは変更する場合は、次により記入すること。

(1) 各科目区分における「小計」の欄及び「合計」の欄には、当該専門職大学の全課程に係る科目数、「単位数」及び「専任教員等の配置」に加え、前期課程に係る科目数、「単位数」及び「専任教員等の配置」を併記すること。

(2) 「学位又は称号」の欄には、当該専門職大学を卒業した者に授与する学位に加え、当該専門職大学の前期課程を修了した者に授与する学位を併記すること。

(3) 「卒業・修了要件及び履修方法」の欄には、当該専門職大学の卒業要件及び履修方法に加え、前期課程の修了要件及び履修方法を併記すること。

授 業 科 目 の 概 要			
(教育学研究科教職実践専攻)			
科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
共通科目	現代社会における教育の課題	<p>〈目標〉 現代社会の教育の状況と学校教育における課題を正しくとらえ、学習指導要領の趣旨を理解し、学年・学校全体の教育課程の編成を構想する力を向上させる。児童生徒等の実態、学習活動に関する教育課題について協議し、それらを踏まえたカリキュラムの全体像を構想することができる。</p> <p>〈概要〉 現代社会における教育の状況と課題について講義する。その上で、児童生徒等の実態に関する教育課題および、児童生徒の学習活動に関する教育課題について協議する。さらに、教育課題を踏まえた学校経営構想について協議し、カリキュラムの全体像を構想する。 (オムニバス・共同方式15回) (21 芋生修一/5回) (12 兼安章子/5回) (8 村田育也/5回) 第1～3回のうちの1回で、各教員が教育課題をテーマにした講義を行い、第4～7回を3人の教員が共同して、「児童生徒等の実態に関する教育課題」をテーマにした演習を行う。 (11 坂井清隆/5回) (23 主税保徳/5回) (10 若木常佳/5回) 第1～3回のうちの1回で、各教員が教育課題をテーマにした講義を行い、第8～11回を3人の教員が共同して、「学習活動に関する教育課題」をテーマにした演習を行う。 (1 青山之典/5回) (22 川島耕司/5回) (18 若松英昭/5回) 第1～3回のうちの1回で、各教員が教育課題をテーマにした講義を行い、第12～15回を3人の教員が共同して、「教育課題を踏まえた学校経営構想」をテーマにした演習を行う。</p>	オムニバス・共同
	カリキュラム・マネジメントの理論と実践	<p>〈目標〉 学校の教育活動全体を学習指導要領と今日の学校教育の課題の観点から捉え、教育課程をマネジメントしていくことができる能力を身につける。</p> <p>〈概要〉 実際にカリキュラムを編成・実施・評価できる資質・能力の育成をワークショップ形式で行う。そのために問題事例を検討し、その検討をふまえて、教科等における年間指導計画とその実施及び評価に係る問題事例の分析を行う。また、総合的な学習の時間の全体計画における問題事例の分析・検討を行う。 (共同方式15回) (2 大竹晋吾/15回) 主担当として、講義内容の理論的な講義、講義内容の再編、院生の議論のファシリテーターとして統括する。 (18 若松英昭/15回) 副担当として、講義内容の実践的指導能力の育成、院生の議論のファシリテーターとして支援する。</p>	共同
	自立活動の理論と心のバリアフリーの実践	<p>〈目標〉 特別支援教育を担う教師に共通して求められる専門性である「自立活動」の理念及び目標・内容、指導を具現化する上で不可欠な個別の指導計画や教師間の連携について基礎的な理解を深める。さらに、心のバリアフリーを指導したり、すべての教員等が「心のバリアフリー」を理解したりするための研修、授業研究などを主導したりするための知識を得る。</p> <p>〈概要〉 特別支援学校学習指導要領とその解説をもとに「自立活動」の理念及び目標・内容について講義形式で学ぶ。あわせて自立活動の視点による子ども理解と指導計画立案の実践について講義及び演習形式で学ぶ。「心のバリアフリーノート(仮)」を活用したすべての子供達に心のバリアフリーを指導するための授業づくり、すべての教員等が「心のバリアフリー」を理解するための研修の実施方法などについて演習形式で学ぶ。 (オムニバス方式15回) (75 一木薫/8回/第1回～第8回) 障害のある児童生徒の教育課程と自立活動の理念・背景及び自立活動の内容について、講義・演習を行う。 (20 舩元俊文/7回/第9回～第15回) 障害のある児童生徒と障害のない児童生徒との交流及び共同学習における心のバリアフリーノートを活用した指導のあり方とその実践について、講義・演習を行う。第15回に全体の総括を行う。</p>	オムニバス

<p>授業分析・リフレクションの理論と実践</p>	<p>〈目標〉 授業研究や教師の成長についての今日的課題を理解した上で授業分析の目的や方法について理解を深め、自己探究につながる授業分析を行うことができる。また、学び続ける教師として、リフレクションの意義やツールを理解し、学校現場での個人・共同でのリフレクションを構想することができる。</p> <p>〈概要〉 リフレクションへの志向性の形成を促すために、小集団での協議を通して自己探究につながる授業分析とリフレクションを理論と具体ツールから学び、学校現場での活用を考える。授業は講義と小集団での協議を繰り返し、前半では自己の内面との対話を行うこと、後半では学校現場での活用を考案する。</p>	
<p>教科教育実践と指導法の改善</p>	<p>〈目標〉 教科等の指導について、授業構想、学習指導案の作成、指導とその評価及び分析、指導技術、改善案の作成等についての理解を深める。 教科等・学校種に共通する授業の在り方について、体系的に理解する。(教育実践力開発コース院生) 教科等・学校間の授業との関連を踏まえて、授業の構成・立案に関して他の教員の指導・助言が出来る、かつ、その授業の評価を適切に行うことができる。(スクールリーダーシップ開発コース院生)</p> <p>〈概要〉 研究者教員と実務家教員が連携して指導する。 その中で授業づくりのための一連のプロセスについて理解を深めるとともに、汎用的な指導技術について理解し、授業づくりおよび授業改善に生かすことができる。 また、TA実践インターンシップⅠにおける学びとの有機的な関連を図るようにする。 (共同方式15回) (1 青山之典/15回) 主担当として、授業の理論的な講義を行うとともに、院生の議論のファシリテーターとして統括する。 (10 若木常佳/15回) 副担当として、担当グループにおいて、授業の理論的な講義を行うとともに、院生の議論のファシリテーターとして支援する。 (16 田淵聡/15回) 副担当として、担当グループにおいて、授業の理論的な講義を行うとともに、議論のファシリテーターとして支援する。 (11 坂井清隆/15回) 副担当として、担当グループにおいて、授業の理論的な講義を行うとともに、議論のファシリテーターとして支援する。 (8 村田育也/15回) 副担当として、担当グループにおいて、授業の理論的な講義を行うとともに、議論のファシリテーターとして支援する。 (18 若松英昭/15回) 副担当として、担当グループにおいて、授業の理論的な講義を行うとともに、議論のファシリテーターとして支援する。 (12 兼安章子/15回) 副担当として、担当グループにおいて、授業の理論的な講義を行うとともに、議論のファシリテーターとして支援する。 (19 脇田哲郎/15回) 副担当として、担当グループにおいて、授業の理論的な講義を行うとともに、議論のファシリテーターとして支援する。</p>	<p>共同</p>
<p>生徒指導の理論と実践</p>	<p>〈目標〉 これまでの小中学校等での教育実践経験をもとに、学校内でのリーダーとしての役割を果たせるように、生徒指導における理論と実践の統合を図る。特に、蓄積された教育経験を再度、理論にもとづいて整理・統合し、新しい課題等にも対応できる即戦力を身につける。</p> <p>〈概要〉 生徒指導の理論を概観した後、生徒指導にかかわる諸事項を広く学習するとともに、相談技法の向上と連携体制構築の具体例を学ぶ。そして、特に在籍校等を例にして、校内体制の改善のために、資料にもとづいて今後の改善案を作成し、実現に向けての手順をシミュレーションする。 (共同方式15回) (19 脇田哲郎/15回) 主担当として、授業の計画・評価等を統括するとともに、キャリア教育等に関する講義を行い、院生の議論のファシリテーターとして支援する。 (3 小泉令三/15回) 副担当として、教育相談等に関する講義を行い、院生の議論のファシリテーターとして支援する。</p>	<p>共同</p>
<p>学校カウンセリングの方法</p>	<p>〈目標〉 「チーム学校」として様々な課題への対応が求められるなか、自他のメンタルヘルスの増進をはかりつつ、相談技能を身につけ、学校カウンセリングにおけるチーム・アプローチを実践できる力量の育成を目標とする。中堅教員は、教職員の多忙化に配慮し、自他の教育相談の力量を高め、学校全体の教育相談体制づくりに貢献できるようにすることを目指す。</p> <p>〈概要〉 学校カウンセリングの理論と方法を学習し、模擬カウンセリングのロール・プレイングを通して教員に必要な相談技術を身につける。また、メンタルヘルスに関する調べ学習や、チーム・アプローチの事例検討と模擬会議等により、実践力を身につける。なお、教職経験の有無による立場の違いを、演習等の役割に反映させ、学修の深化をはかる。</p>	

<p>障害のある児童生徒の理解と合理的配慮</p>	<p>〈目標〉 特別支援教育の対象となる障害の定義および障害特性を理解するとともに、その障害の状態に合わせた合理的配慮について理解し、心のバリアフリーの授業づくりについて学ぶ。</p> <p>〈概要〉 視覚障害・聴覚障害・知的障害・肢体不自由・病弱・言語障害・発達障害について、定義、分類、障害特性などについて講義を通して学ぶとともに、学習指導要領に示されている合理的配慮の例を確かめながら、一人ひとりの実態に合わせた合理的配慮の内容について理解する。さらに、心のバリアフリーを指導するために必要な知識を得る。最後に、校内で合理的配慮を提供するための体制づくりについて学ぶ。</p> <p>(オムニバス・共同方式15回) (78 中村貴志/2回/第1回～第2回) 視覚障害児の定義、分類、障害特性に即した支援方法、合理的配慮、心のバリアフリーの指導について、講義・演習を行う。 (74 相澤宏充/2回/第3回～第4回) 聴覚障害児の定義、分類、障害特性に即した支援方法、合理的配慮、心のバリアフリーの指導について、講義・演習を行う。 (82 熊谷亮/2回/第5回～第6回) 知的障害児の定義、分類、障害特性に即した支援方法、合理的配慮、心のバリアフリーの指導について、講義・演習を行う。 (76 大平壇/2回/第7回～第8回) 肢体不自由児の定義、分類、障害特性に即した支援方法、合理的配慮、心のバリアフリーの指導について、講義・演習を行う。 (83 貫名英之/2回/第9回～第10回) 病弱児の定義、分類、障害特性に即した支援方法、合理的配慮、心のバリアフリーの指導について、講義・演習を行う。 (77 見上昌睦/2回/第11回～第12回) 言語障害児の定義、分類、障害特性に即した支援方法、合理的配慮、心のバリアフリーの指導について、講義・演習を行う。 (7 納富恵子/2回/第13回～第14回) 発達障害児の定義、分類、障害特性に即した支援方法、合理的配慮、心のバリアフリーの指導について、講義・演習を行う。 (20 舩元俊文/15回) 主担当として全体を統括する。</p>	<p>オムニバス・共同</p>
<p>教育改革の動向と学校経営・学級経営の課題</p>	<p>〈目標〉 学校教育の課題について子ども・家庭・地域・行政等の視点から整理するとともに、学習指導要領改訂等の教育改革の動向を踏まえた学校経営・学級経営の在り方について理解する。また、学年・学級経営について、PDCAサイクルによる取組を具体的に構想するとともに、その推進にあたり積極的にリーダーシップを発揮する。</p> <p>〈概要〉 学校教育の課題と教育改革の動向を踏まえた学校経営・学級経営の在り方について、講義や事例検討を通して学ぶ。また、学年・学級経営の実践について相互検討を行う。</p> <p>(共同方式15回) (24 峯田明子/15回) 主担当として、授業の理論的な講義、及び、院生の議論のファシリテーターとして統括する。 (1 青山之典/15回) 副担当として、授業の理論的な講義、及び、院生の議論のファシリテーターとして支援する。</p>	<p>共同</p>
<p>学校における統計基礎</p>	<p>〈目標〉 学校等における教育活動で必要となる統計的手法の基礎を習得し、教育実践に関わる統計資料やデータを実際に活用できるようにする。</p> <p>〈概要〉 教育実践の場で必要となる統計的手法の基礎を習得するために、統計学および心理・教育測定学の基本的事項を学習する。</p>	
<p>スクールコンプライアンスと教職プロフェッションの開発</p>	<p>〈目標〉 社会における学校と教員の役割と使命を理解し、教師にふさわしい責任ある活動することができる。また、教員の社会的・職業倫理を深く理解し、保護者や地域の人々や同僚と信頼関係をもって活動をリードすることができる。そして、教育実践者としての自己を反省的にとらえるとともに、様々な考えをもつ多様な他者とのコミュニケーションを保つ力量を備え、共に、他の教員をリードする形で教員の資質の改善に資することができる。さらに、信頼される教師としての教職プロフェッションの豊かな指導スキルをもち、保護者や地域からのニーズを適切に受けとめ、対応することができる。</p> <p>〈概要〉 学校のさまざまな場面で生起する職業倫理、生徒指導上の問題を取り上げて事例をもとに実践分析と検討を行う。そして、教員評価制度、学校ハラスメント、保護者対応等の事例を取り上げ対応方法についてディスカッションし、信頼される教員としての判断と行動の仕方を学ぶ。後半では現職院生の企画による危機管理のワークショップを中心に学ぶ。</p> <p>(共同方式15回) (23 主税保徳/15回) 主担当として、授業の理論的な講義（スクールコンプライアンス全般）及び、院生の議論のファシリテーターとして統括する。 (17 森保之/15回) 副担当として、授業の理論的な講義（危機管理事例等）、及び、院生の議論のファシリテーターとして支援する。</p>	<p>共同</p>

	<p>学級経営のPDC Aと学習環境デザイン</p>	<p>〈目標〉 “教室の事実”から児童生徒の個と学級集団のニーズや課題、課題解決のための方策を的確に理解することができる。マネジメント・スキル等を実践的な場面で活用することができる。安全及び掲示物や机の配置等学習意欲を高める環境としての学習環境づくりの必要性を理解しデザインできる。学校経営、学年経営、保護者や地域との連携・協力した学級経営の重要性を理解できる。附属実習と連関させることにより、経験や体験を通して学級経営の内容や方法を具体的に理解することができる。</p> <p>〈概要〉 学級の現状と学級経営の必要性とその内容や方法を理解する。その上で学級経営と授業づくりの関係を理解するとともに、学級経営を基盤にした授業づくりの対応スキルを身につける。 また、学級経営と特別活動・生徒指導の関係を理解し、学級経営の年間計画立案に生かすことができる。 さらに学級担任が苦慮している学級の規範づくり・生徒指導上の問題（いじめ・不登校・学級の荒れ等）・保護者や地域対応について理解するとともに対応スキルを身につける。まとめとして、学級経営案・学習環境構成案・学級開き案等を作成し交流する。</p>	
	<p>学級経営の実際と分析</p>	<p>〈目標〉 “教室の事実”から児童生徒の個と学級集団のニーズや課題、課題解決のための方策を的確に理解するとともに、教員としての具体的な対応の考え方やスキルを習得することができる。教職大学院で学んだ経験を活かし、TA実習校の教員の学級経営を観察・分析することができる。学級担任の意図的・計画的な学級経営の理念や計画、具体的な経営スキルに気づくことができる。TA実習校の教員の学級経営に積極的に参画することで、学級経営ハンドブックの内容をより現実に即した使いやすいものにする事ができる。</p> <p>〈概要〉 「TA実践インターンシップⅢ・Ⅳ」と関連させることにより、1年間の“教室の事実”を通じて学級経営プロセスを実践的に学習し、学級経営ハンドブックとしてまとめる。TA実習校教員の学級経営を教職大学院で学んだ視点で評価・分析・考察し、価値づけたり理論化したりする。自己の実践に裏付けられた学級経営ハンドブックを作成する。</p>	
	<p>未来をつくる教師の力量</p>	<p>〈目標〉 正しい知識と理解に裏付けられた確かな教育観を持ち、これからの教育のあり方を考えることができる。学校教育が抱える教育問題を正しく把握し、それらを解決するための大局的な考え方をすることができる。</p> <p>〈概要〉 学校教育制度が定着する以前の教育システム、過去にあった学校教育制度が抱える問題を解決する取り組み、世界の学校制度や教育改革、自然科学、社会科学、人文科学に基づいた教育理論や教育理念などについて総合的に学ぶ。学修したことを踏まえて、プレゼンテーションやディスカッションを通して、各自の教育観や望ましい教育の未来について議論する。 (共同方式、3回) (8 村田育也/3回) 主担当として、本授業の講義と演習を総括する。 (1 青山之典、21 学生修一、22 川島耕司、12 兼安章子、11 坂井清隆、23 主税保徳、18 若松英昭、10 若木常佳/3回) 副担当として本授業の講義と演習を支援する。 (オムニバス方式12回) (8 村田育也/2回) 学校外教育及びアドラー心理学について講義を行う。 (1 青山之典/2回) 経験主義教育及び論理的思考について講義を行う。 (10 若木常佳/2回) 学校の成立と変化及び個別化と個性化について講義を行う。 (21 学生修一/1回) 学校におけるミドルリーダーの役割について講義を行う。 (22 川島耕司/1回) 子どもの貧困化と教育のこれからについて講義を行う。 (12 兼安章子/1回) 教師組織と教師の人間関係について講義を行う。 (11 坂井清隆/1回) 授業の質的研究について講義を行う。 (23 主税保徳/1回) 問題設定と問題解決について講義を行う。 (18 若松英昭/1回) 教師のライフサイクルと力量形成について講義を行う。</p>	<p>オムニバス・共同</p>
	<p>教師の成長とセルフスタディ</p>	<p>〈目標〉 学び続ける教師として、教師の成長に不可欠なセルフスタディについて理解し、修了後のセルフスタディを継続する力を育てる。</p> <p>〈概要〉 共通科目「授業分析・リフレクションの理論と実践」の内容を踏まえ、教師の成長に不可欠なリフレクションの具体的な方法・実践を実際に活用できるようにする。さらに、学校現場でセルフスタディを行うための具体イメージを持つ。</p>	

教育連携フィールドワーク	<p>〈目標〉 教育連携力、地域連携推進力、教育環境調整力等の“パートナーシップ”の意義を理解し、連携を推進できる。多面的・多角的な子どもの理解と自立支援のあり方に対する複眼的思考の下で、児童生徒のニーズや課題に応じた指導ができる。さらに、これからの学校教育の在り方についてリーフレット等として作成し提言できる。</p> <p>〈概要〉 学校の連携協力の実態を事前学習や視察を通して理解を深め、今後の学校運営や学校教育のあり方について協議し、若い教師として何が出来るか探り実践で活かすことができる。 小中連携校、コミュニティスクール、適応指導教室を視察する。 スクールカウンセラーやスクールソーシャルワーカーによる学校との連携協力の実態と課題を知る。 現職院生との合同授業を行い、現職院生の報告をもとに、小中連携学校やコミュニティスクールを理解する。 まとめを作成し、教育連携における自己の役割を明確化する。</p>	
家庭・地域・学校の連携・協働の構築	<p>〈目標〉 保護者・地域との連携の意義と機能に関する課題を実践的・課題解決的な側面から理解できる。そのため、教育連携力、地域連携推進力、教育環境調整力等の“パートナーシップ”の意義を理解し、連携を推進できる。また、保護者の対応と地域との連携を、学校のスタッフとしての組織的・経営的な視点から課題解決のストラテジー（方略）を開発できる。さらに、ワークショップをファシリテートできるスキルを習得する。</p> <p>〈概要〉 学校組織マネジメント等の視点から授業場面や学級経営場面における教育連携・地域連携の事例研究を行い、連携モデルを提案する。また、学級経営力に優れた教員等から保護者対応等の基本姿勢と実践的スキルを学び、対応場面をシミュレーションする。さらに、信頼される学校・教師像を明らかにすることを通じて、学校に対するニーズ等を分析・再構成する。 (共同方式5回/第1、12、13、14、15回) (21 芋生修一/5回) 主担当として、授業の理論的な講義及び演習や協議を統括する。 (23 主税保徳/5回) 副担当として、授業の理論的な講義に関する補足及び演習や協議を支援する。 (オムニバス方式10回) (21 芋生修一/8回) オムニバス10回のうち第2、3、6、7、8、9、10、11回を担当し、保護者・地域との連携の意義と具体像について授業を実施する。 (23 主税保徳/2回) オムニバス10回のうち第4、5回を担当し、学校組織マネジメントの理論と実際について授業を実施する。</p>	オムニバス・共同
授業づくりの理論と質的研究の基礎	<p>〈目標〉 授業構築の理論をもとに、教科の系統性、学習者の成長、教師の意図及び手だてという観点から授業の事実を手がかりにした推論の構えを身に付ける。さらに、質的アプローチ（参与観察・談話分析等）によって授業の事実から分析・考察を進め、授業改善につなぐプロセスについての理解を深める。</p> <p>〈概要〉 前半では、教科の系統性、学習者の成長、教師の意図及び手だてといった様々な観点から捉えられる授業の事実を相互に関係づけることによって、「授業」は構成されたものであるということ、その理論的背景と授業動画から理解する。 後半では、実際の授業を観察するとともに、質的に研究を進めて、授業の事実を捉え、考察する。また、それらの結果を交流し、協議することを通して、質的研究の基礎を養う。 (共同方式 15回) (1 青山之典/15回) 前半1回～4回の主担当として、授業構築の理論や授業を捉える分析方法についての理論的な講義及び演習における院生の議論のファシリテーターとして統括する。また、後半5回～15回は、副担当として、質的研究の理論や実践的な側面の補足及び院生の議論の実務的なファシリテーターとして支援する。 (11 坂井清隆/15回) 前半1回～4回は、副担当として、授業づくりの理論や実践的な側面の補足、及び演習における院生の議論の実務的なファシリテーターとして支援する。後半5回～15回の主担当として、質的研究に関する理論的な講義及び院生の議論のファシリテーターとして統括する。 (23 主税保徳/15回) 1回～15回を通して、副担当として、授業構築の理論や授業分析の実践的な側面の補足、及び授業研究会における院生の議論の実務的なファシリテーターとして支援する。</p>	共同

<p>特別活動・総合的な学習の時間の実践と課題</p>	<p>〈目標〉 望ましい集団活動を通して、自らよりよい生活や人間関係を築こうとする自主的、実践的な態度や、自己を生かす能力を養う特別活動の発達の段階に応じた指導のあり方についての理解を深めるとともに、集団活動、自主的活動、実践的活動という特別活動の機能を学級経営に生かすことができる教員の養成を目指す。また、総合的な学習の時間等の特質（目標、内容、指導方法等）や歴史的経緯を理解し、学校における取組の意義や改善案についてディスカッションできる基礎を培う。さらに、指導法の理解を基に、学習指導を行うことができる。</p> <p>〈概要〉 特別活動の概観（目標・教育的意義の理解）、学級活動（1）（2）（3）の特質と指導方法、学級経営と連動した学級活動の年間指導計画の作成、各活動・学校行事の指導法、特別活動の評価について実践的な指導力を身に付ける。また、総合的な学習の時間等の意義や授業づくりを学び、個々に課題を設定して授業を構想し、各自模擬授業を実施し、課題を分析・考察する。</p>	
<p>道徳教育の実践と課題</p>	<p>〈目標〉 道徳教育の特質と指導法の理解を基に、学習指導を行うことができる。また、道徳教育と関係づけて人権教育の理念とその意義についても、その概要を理解する。</p> <p>〈概要〉 教育活動全体で取り組む道徳教育の理念とその意義を理解するとともに、道徳の時間を中心とした授業づくりを学び、個々に課題を設定して授業を構想し、各自模擬授業を実施し、課題を分析・考察する。また、教育活動全体で取り組む人権教育の理念とその意義についても、道徳教育と関係づけてその概要を理解する。</p>	
<p>教育の情報化における課題と実践</p>	<p>〈目標〉 教育の情報化の内容と方法について正しく理解するとともに、教科指導におけるICT活用を正しく理解し、その具体的な方法と場面を構想することができる。また、情報教育の目標を正しく理解し、情報活用能力を身につけさせるための学習活動を構想することができる。また、情報モラル教育の必要性を正しく理解し、発達段階を踏まえた具体的な指導を構想することができる。</p> <p>〈概要〉 文部科学省が示した「教育の情報化に関する手引き」に基づいて、講義と演習を行う。教科指導におけるICT活用の考え方と具体的な方法や場面、情報活用能力を身につけさせるための学習活動について、講義と演習を通して学ぶ。情報モラル教育の内容と方法について、発達段階に応じた指導について学ぶとともに、家庭・地域との連携の重要性とその方法についても扱う。</p>	
<p>子供の深い学びを促すディスカッションのあり方と授業づくり</p>	<p>〈目標〉 教科授業における主体的対話的な学習プロセスを実現するためのディスカッションのあり方を理解し、具体的な授業プランを考案することができる。</p> <p>〈概要〉 前半では、深い学びを促すための主体的対話的な学習プロセスを実現するディスカッションとはどのようなものなのかを、それを支える思考理論を学びつつ、ディスカッション演習をとおして理解を深める。さらに後半では、前半で理解したことをもとにして授業プランを立て、マイクロティーチングにおける協働的な授業改善を行うことで、授業プラン考案の方途についての理解を深める。</p> <p>（共同方式 7回） （8 村田育也/7回） 主担当として、深い学びを促すディスカッションに関する講義と演習を総括する。 （1 青山之典/7回） 副担当として、深い学びを促すディスカッションに関する講義と演習を支援する。 （オムニバス方式 8回） （8 村田育也/4回） 第2, 3, 8, 9回を担当し、哲学的なディスカッションと子どものための哲学授業について、講義と演習を行う。 （1 青山之典/4回） 第4～7回を担当し、論理的思考とディスカッション、批判的思考とディスカッションについて、講義と演習を行う。</p>	<p>オムニバス・共同</p>

<p>教科等における授業実践と評価の研究Ⅰ (国語)</p>	<p>〈目標〉 小学校国語科の教科特性及び児童の実態に応じた授業について自ら考案して指導案作成を行うとともに、TA実践インターンシップ等で観察した授業との比較考察を踏まえ、探究して改善案を作成し、授業を構成する力を身に付けることができる。</p> <p>〈概要〉 小学校国語科における各領域の学習内容設定の視点や授業展開の工夫などを担当教員の講義や演習を通して学ぶ。さらに、TA実践インターンシップにおいて分析した授業と自らの指導案を比較検討し、改善案を作成することで、「主体的・対話的で深い学び」を実現する授業の在り方を考察する。 (オムニバス・共同方式15回) (16 田淵聡/15回) 主担当者として全体を統括するとともに、第2～5回には「書くこと」を中心にして指導を担当する。 (10 若木常佳/4回) 第2～5回に「話すこと・聞くこと」を中心にして指導を担当する。 (30 久保田裕子/4回) 第2～5回に「読むこと(現代文)」を中心にして指導を担当する。 (29 菊池庸介/4回) 第2～5回に「読むこと(古文)」を中心にして指導を担当する。 (27 勝又隆/4回) 第2～5回に「言葉の特徴や使い方、伝統的な言語文化」を中心にして指導を担当する。 (34 竹元規人/4回) 第2～5回に「読むこと(漢文)」を中心にして指導を担当する。</p>	<p>オムニバス・共同</p>
<p>教科等における授業実践と評価の研究Ⅰ (算数)</p>	<p>〈目標〉 小学校算数科の教科の特性及び児童の実態に応じた授業について自ら考案して指導案作成を行うとともに、モデル授業との比較考察を踏まえて修正案を作成し、授業構成力を身に付けることができる。</p> <p>〈概要〉 小学校算数科における「数と計算」「図形」「変化と関係」「データの活用」の教材研究や授業展開の工夫などを担当教員の講話や「匠のわざ」の動画等から学ぶ。さらに、TA実践インターンシップにおいて分析した授業と自らの指導案を比較検討し、修正案を作成することで、「主体的・対話的で深い学び」を実現する授業の在り方を考察する。 (共同方式15回) (23 主税保徳/15回) 主担当として、理論的な講義内容、再編、院生の議論(授業分析等)のファシリテーターとして統括する。 (17 森保之/15回) 副担当として、実践的な指導力の育成、院生の議論(授業分析等)のファシリテーターとして支援する。</p>	<p>共同</p>
<p>教科等における授業実践と評価の研究Ⅱ (社会)</p>	<p>〈目標〉 初等社会科授業を分析し、そこでの教材の役割と教材研究の特質を理解した上で、教材研究を視点に社会科授業(単元)を構想することができる。</p> <p>〈概要〉 社会科の教育目的・目標のパラダイムによって内容構成がどのように違ってくるのかを学ぶことで、受講者の授業実践と社会科教育観を相対化する。次に、受講者自身のこれまでの被教育体験・実習等での指導経験を振り返った上で、特徴的な社会科授業を目標-内容-方法を視点に分析する。具体レベルでの社会科の多様な側面を、研究・理論上の整理を視点に検討することで、経験知と理論知との往還・融合を図るようにする。さらに、初等社会科授業(TAインターンシップ実習での実践も含む)を分析し、そこでの教材の役割と教材研究の特質を理解した上で、教材研究を視点に社会科の単元を構想し、模擬的な実践を行う。 (オムニバス方式15回) (11 坂井清隆/6回) 第1回～6回を担当し、初等社会科教育の理論的な講義、及び院生の議論のファシリテーターとして統括する。 (22 川島耕司/6回) 第7回～15回を担当し、受講生が構想した単元や実践について交流させ指導助言を行うと併に学修のまとめを行う。</p>	<p>オムニバス</p>
<p>教科等における授業実践と評価の研究Ⅱ (算数)</p>	<p>〈目標〉 小学校算数科の教科の特性及び児童の実態に応じた授業について自ら考案して授業実践を行うとともに、その成果と課題を踏まえて修正案を作成することができる。</p> <p>〈概要〉 小学校算数科における「数と計算」「図形」「変化と関係」「データの活用」のうちから焦点を絞り、教材研究や授業展開の構想などを行う。さらに、TA実践インターンシップにおいて授業を実践し、授業分析をもとに修正案を作成する。これらの学修を通して、「主体的・対話的で深い学び」を実現する授業の在り方を考察する。 (共同方式15回) (17 森保之/15回) 主担当として、授業の理論的な講義及び、院生の議論(授業分析等)のファシリテーターとして統括する。 (23 主税保徳/15回) 副担当として、院生の議論(授業分析等)のファシリテーターとして支援する。</p>	<p>共同</p>

<p>教科等における授業実践と評価の研究Ⅱ (理科)</p>	<p>〈目標〉 小学校理科の教科特性及び児童の実態に応じた授業について自ら考案して授業実践を行うとともに、その成果と課題を踏まえて修正案を作成することができる。</p> <p>〈概要〉 理科の特性を踏まえ、児童の実態に応じた授業実践上の課題について考察する。また、TA実践インターンシップ実習で参観した授業をもとに、授業展開の工夫などについて学ぶとともに、主体的・対話的で深い学びを実現する授業実践を構想する。</p> <p>(オムニバス方式15回) (59 森藤義孝・52 坂本憲明・61 甲斐初美/5回) 全授業15回の内、第1回～5回を担当し、「学習指導要領の変遷と目標分析、教科書の変遷」をテーマにした講義・演習を行う。 (5 西野秀昭) 全授業15回の内、第6回～15回を担当し、「主体的・対話的で深い学びを実現する授業の構想」をテーマにした講義・演習を行う。</p>	<p>オムニバス</p>
<p>教科等における授業実践と評価の研究Ⅱ (英語)</p>	<p>〈目標〉 小学校の「外国語活動」「外国語科」について、それらの特性を踏まえ、児童の実態に応じた教材研究や学習指導案作成を行うとともに、その成果と課題を踏まえて修正案を提案することができる。</p> <p>〈概要〉 「外国語活動」「外国語科」の教材開発及び授業展開の工夫について、「話すこと」「聞くこと」「読むこと」「書くこと」の領域から検討する。作成した学習指導案について、TA実践インターンシップ実習校における学習指導と自己の学習指導案の比較分析を通して、修正案や模擬授業の提案を行う。</p> <p>(共同方式/全15回) (63 江頭理江/15回) 「話すこと・聞くこと・読むこと・書くこと」の教材研究と授業展開、学習指導案や実践の検討について担当する。 (66 吉武正樹/15回) 「話すこと・聞くこと」の教材研究と授業展開、学習指導案や実践の検討について担当する。</p>	<p>共同</p>
<p>教科等における授業実践と評価の研究Ⅱ (体育)</p>	<p>〈目標〉 小学校体育科の教科特性及び児童の実態に応じた授業について自ら考案して授業実践を行うとともに、その成果と課題を踏まえて修正案を作成することができる。</p> <p>〈概要〉 小学校体育科の各領域の教材開発や授業展開の工夫などを担当教員のもとで学ぶとともに、TA実践インターンシップにおいて分析した授業と自らの指導案を比較検討し、修正案を作成することで、「主体的・対話的で深い学び」を実現する授業の在り方を考察する。</p>	
<p>教科等における授業実践と評価の研究Ⅲ (国語)</p>	<p>〈目標〉 小学校国語科の教科特性及び児童の実態に応じた授業について自ら考案して授業実践を行うとともに、その成果と課題を踏まえて改善案を作成することができる。</p> <p>〈概要〉 小学校国語科における各領域のうちから焦点を絞り、教材研究や授業展開の構想などを行う。さらに、TA実践インターンシップにおいて授業を実践し、授業分析をもとに改善案を作成する。これらの学修を通して、「主体的・対話的で深い学び」を実現する授業の在り方を考察する。</p> <p>(共同・オムニバス方式15回) (1 青山之典/15回) 主担当として全体を統括するとともに、第5～9回には「話すこと・聞くこと、読むこと(現代文)、書くこと」を中心にして指導を担当する。 (33 荻野千砂子/7回) オリエンテーションおよびまとめを共同で担当するとともに、第5～9回には「言葉の特徴や使い方、伝統的な言語文化」を中心にして指導を担当する。 (35 沼尻利通/7回) オリエンテーションおよびまとめを共同で担当するとともに、第5～9回には「読むこと(古文)」を中心にして指導を担当する。 (31 鶴成久章/7回) オリエンテーションおよびまとめを共同で担当するとともに、第5～9回には「読むこと(漢文)」を中心にして指導を担当する。</p>	<p>共同・オムニバス</p>

<p>教科等における授業実践と評価の研究Ⅲ (社会)</p>	<p>〈目標〉 初等社会科授業の目標や内容を分析し、教材の役割と教材研究の特質を理解した上で、子どもの実態を踏まえて社会科授業(単元)を構想・実践し、改善案を提案することができる。</p> <p>〈概要〉 初等社会科における目標(公民としての資質・能力)や内容(スコープとシークエンス)、授業方法について様々な事例に基づいて確認する。この学修を踏まえて、社会科の単元を構想する。その際、TAインターンシップ実習で担当している児童の実態把握(関心の傾向性やこだわり)を行う。これらを踏まえて、模擬授業と共に授業実践を行う。最終的に授業記録や映像に基づいた改善案を作成する。</p> <p>(オムニバス方式15回) (22 川島耕司/11回) 第1回～11回を担当し、初等社会科の目標(公民としての資質・能力)や内容(スコープとシークエンス)についての講義及び院生の議論のファシリテーターとして統括する。</p> <p>(11 坂井清隆/4回) 第12回～15回を担当し、理論や実践的な側面の補足及び院生の議論の実務的なファシリテーターとして支援しつつ、受講生が構想した単元や実践について交流させ指導助言を行い、学修のまとめを行う。</p>	<p>オムニバス</p>
<p>教科等における授業実践と評価の研究Ⅲ (理科)</p>	<p>〈目標〉 小学校理科の教科特性及び児童の実態に応じた授業について自ら考案して授業実践を行うとともに、その成果と課題を踏まえて修正案を作成することができる。</p> <p>〈概要〉 小学校理科における内容の区分「A物質・エネルギー」、「B生命・地球」の特性や児童の実態に応じた授業実践上の課題について考察する。また、評価計画や評価方法、教材開発、授業展開の工夫などを検討する。さらに、TA実践インターンシップ実習において実践する授業を構想し、実践した授業を分析するとともに、修正案を作成する。これらの学修を通して、「主体的・対話的で深い学び」を実現する小学校理科の授業実践を構想する。</p> <p>(オムニバス方式15回) (59 森藤義孝・52 坂本憲明・61 甲斐初美/5回) 全授業15回の内、第1回～5回を担当し、「学習指導要領小学校理科の内容特性」及び「小学校理科授業の評価の検討」をテーマにした講義・演習を行う。</p> <p>(5 西野秀昭) 全授業15回の内、第6回～15回を担当し、「小学校理科授業の評価計画や評価方法、教材開発、授業展開の工夫」をテーマにした講義・演習を行う。</p>	<p>オムニバス</p>
<p>教科等における授業実践と評価の研究Ⅲ (英語)</p>	<p>〈目標〉 小学校の「外国語活動」「外国語科」について、それらの特性及び児童の実態に応じた教材や単元構成を含む授業の具体について考案することができる。マイクロティーチングを通して、授業分析結果と課題を踏まえた修正案作成を目指す。</p> <p>〈概要〉 本授業では、学習者にとっての教材と授業の意味の考察、焦点化する領域の決定と学習計画作成について取り扱う。具体的には、年間指導計画の検討、学習者の実態に照らした教材分析や単元構成演習に取り組む。TA実践インターンシップ実習校の児童を想定した学習指導案や教材・教具を具体的に作成し、マイクロティーチングを通して授業改善案についても検討する。</p>	<p></p>
<p>教科等における授業実践と評価の研究Ⅲ (体育)</p>	<p>〈目標〉 小学校体育科の教科特性及び児童の実態に応じた授業について自ら考案して授業実践を行うとともに、その成果と課題を踏まえて修正案を作成することができる。</p> <p>〈概要〉 小学校体育科における各領域のうちから焦点を絞り、教材研究や授業展開の構想などを行う。さらに、TA実践インターンシップにおいて授業を実践し、授業分析をもとに改善案を作成する。これらの学修を通して、「主体的・対話的で深い学び」を実現する授業の在り方を考察する。</p> <p>(共同方式15回) (26 松崎治一/15回) 主担当者として全体を統括する。</p> <p>(68 市丸直人/15回) 「ボール運動」を中心とした専門的な知識・技能および専門性をふまえた教材研究・授業づくりの方法について指導する。</p> <p>(69 片平誠人/15回) 「体づくり運動」「陸上運動」を中心とした専門的な知識・技能および専門性をふまえた教材研究・授業づくりの方法について指導する。</p> <p>(71 清水知恵/15回) 「表現運動」を中心とした専門的な知識・技能および専門性をふまえた教材研究・授業づくりの方法について指導する。</p> <p>(73 樋口善之/15回) 「保健」を中心とした専門的な知識および専門性をふまえた教材研究・授業づくりの方法について指導する。</p> <p>第1回のオリエンテーションは全員で行うが、第2～15回については、履修生が希望する1つの領域に焦点を絞り、指導を行う。</p>	<p>共同</p>

<p>教育実践の理論と授業づくり (国語科)</p>	<p>〈目標〉 専門外教科の学習内容の系統性や教科の本質、授業展開の工夫などを担当教員のもとで学ぶとともに、専門教科における授業改善についての考えを深めることができる。</p> <p>〈概要〉 国語科の特性を踏まえ、生徒の実態に応じた授業実践上の課題について考察する。また、「学校における実習」での授業実践や参観した授業を用いて、授業展開の工夫などを担当教員のもとで学ぶとともに主体的、対話的な学習展開について考えることができる。</p> <p>(共同・オムニバス方式15回) (32 山元悦子/15回) 主担当者として全体を統括するとともに、第3～5回には「話すこと・聞くこと」を中心にして指導を担当する。 (30 久保田裕子/3回) 第3～5回には「読むこと (現代文)」を中心にして指導を担当する。 (29 菊池庸介/3回) 第3～5回には「読むこと (古文)」を中心にして指導を担当する。 (27 勝又隆/3回) 第3～5回には「言葉の特徴や使い方、伝統的な言語文化」を中心にして指導を担当する。 (34 竹元規人/3回) 第3～5回には「読むこと (漢文)」を中心にして指導を担当する。 (1 青山之典/3回) 第3～5回には「書くこと」を中心にして指導を担当する。</p>	<p>共同・オムニバス</p>
<p>教育実践の理論と授業づくり (社会科)</p>	<p>〈目標〉 専門外教科の学習内容の系統性や教科の本質、授業展開の工夫などを担当教員のもとで学ぶとともに、専門教科における授業改善案を作成することができる。中学社会科もしくは、高等学校地歴・公民科における「教材」の機能と役割を理解するとともに、社会科及び受講生の専門とする教科の教材の機能と役割を踏まえて、教科横断的な授業 (単元) を構想することができる。</p> <p>〈概要〉 社会科の教育目的・目標のパラダイムと内容構成の関連について学び、受講者の社会科教育観を相対化する。次に、受講生自身のこれまでの被教育体験を振り返った上で、特徴的な社会科授業を目標-内容-方法を視点に分析し、具体レベルでの社会科の多様な側面を、研究・理論上の整理を視点に検討する。さらに、学修した社会科教育の内容と受講生が専門とする教科の本質や特性を踏まえて教科等横断的な授業 (単元) を構想する。</p> <p>(オムニバス方式15回) (13 小田泰司/2回) 第1回～2回を担当し、受講者自身の社会科教育観 (授業観・評価観) の捉え直しと指導要領の変遷と社会科教育の具体的把握及び社会科の教育目的・目標のパラダイムと内容構成の関連について論じる。 (11 坂井清隆/7回) 第3回～6回を担当し、主に中等社会科実践分析やケーススタディを行う。また、第7回～9回を担当し、附属学校での先行事例に基づきつつ、真正な学び論について論じる。 (37 豊島啓司/4回) 第10～13回を担当し、教科等横断的な単元の構想を指導する。 (21 半生修一/2回) 第14回～15回を担当し、受講生が構想した単元や実践について交流させ指導助言を行うと併に学修のまとめを行う。</p>	<p>オムニバス</p>
<p>教育実践の理論と授業づくり (数学科)</p>	<p>〈目標〉 専門外教科の学習内容の系統性や教科の本質、授業展開の工夫などを担当教員のもとで学ぶとともに、専門教科における授業改善案を作成することができる。</p> <p>〈概要〉 数学科の教科特性や生徒の実態に応じた授業実践上の課題について考察する。また、教科等横断的な学習という視点から、専門教科の教材研究を行い、授業を構想する。</p> <p>(共同方式15回) (47 今井一仁/15回) 全体を統括すると共に、専門的な知識、技能及び専門性をふまえた授業改善案が作成できるように指導する。 (18 若松英昭/15回) 副担当として、数学科の卒業実践上の課題について考察したり、教科等横断的な学習の視点から授業づくりについて具体的に指導する。</p>	<p>共同</p>
<p>教育実践の理論と授業づくり (理科)</p>	<p>〈目標〉 専門外教科の学習内容の系統性や教科の本質、授業展開の工夫などを担当教員のもとで学ぶとともに、専門教科における授業改善についての考えを深めることができる。</p> <p>〈概要〉 理科の特性を踏まえ、生徒の実態に応じた授業実践上の課題について考察する。また、TA実践インターンシップ実習の附属学校で参観した授業をもとに、授業展開の工夫などについて学ぶとともに、主体的・対話的で深い学びを実現する授業実践を構想する。(オムニバス方式15回) (59 森藤義孝・52 坂本憲明・61 甲斐初美/5回) 全授業15回の内、第1回～5回を担当し、「学習指導要領の変遷と目標分析、教科書の変遷」をテーマにした講義・演習を行う。 (59 森藤義孝・52 坂本憲明・61 甲斐初美 /10回) 全授業15回の内、第6回～15回を担当し、「主体的・対話的で深い学びを実現する授業の構想」をテーマにした講義・演習を行う。</p>	<p>オムニバス</p>

<p>教育実践の理論と授業づくり（英語科）</p>	<p>〈目標〉 専門外教科である英語科の学習内容の系統性や教科の本質、授業展開の工夫などを学ぶとともに、具体的な教材に即した学習指導構想を作成することができる。</p> <p>〈概要〉 英語科の教科特性や生徒の実態に応じた授業実践上の課題について考察する。特に、文法指導とコミュニケーション、「聞くこと」「話すこと」「読むこと」「書くこと」領域、及び4技能統合について取り扱う。また、英語科における教材の具体的な検討を通して、教科横断的な視点をもって、学習指導を構想する。 (オムニバス・共同方式/全15回) (9 森千鶴/11回) 学習指導要領の検討や、「文法指導とコミュニケーション活動」及び「聞くこと」「話すこと」「読むこと」「書くこと」領域および技能統合の実践的検討について担当する。 (25 井之上浩幸/6回) タスク活動と4技能統合の検討や学習指導案作成と教科横断的な視点での検討について担当する。</p>	<p>オムニバス・共同</p>
<p>教育実践の理論と授業づくり（保健体育科）</p>	<p>〈目標〉 専門外教科の学習内容の系統性や教科の本質、授業展開の工夫などを担当教員のもとで学ぶとともに、専門教科における授業改善案を作成することができる。</p> <p>〈概要〉 保健体育科の教科特性や生徒の実態に応じた授業実践上の課題について考察する。また、専門教科の見方・考え方を育成する授業づくりを教科等横断的な学習の視点をもって構想することができる。</p>	
<p>授業実践と評価の研究 I a（国語科）</p>	<p>〈目標〉 中学校国語科の教科特性及び中学校の生徒の実態に応じた授業について自ら考案して授業実践を行うとともに、その成果と課題を踏まえ、評価の点から授業を見直すことができる。</p> <p>〈概要〉 能力分析及年間指導計画、3年間を見通した指導計画を関連させながら、学習者の状態を捉え指導に反映する評価活動について担当教員のもとで学ぶとともに、「学校における実習」において実践した授業を分析し、改善案を作成する。場合によっては、試験問題の作成、生徒に対する評価説明資料を作成する。</p>	
<p>授業実践と評価の研究 I a（社会科）</p>	<p>〈目標〉 中学校社会科または高等学校地歴科公民科の教科特性及び中学校、高等学校の生徒の実態に応じた単元を構想することができる。</p> <p>〈概要〉 中学校社会科における教材の機能と役割を理解するとともに、教材の機能と役割を踏まえた授業分析と教材研究を通して、社会科単元を構想する。受講者がこれまでの実習等で行ってきた授業づくり、特に教材研究について振り返った上で、授業実践例の教材研究と授業づくりを教科教育と教科専門の視点から分析し、追体験していく。そして、育成を目指す資質と内容的なテーマを課題として設定させ、それらを身につけるための教材と授業を教科教育・教科専門の教員とともに構想し、その教材を用いた授業プランを構想する。 (オムニバス方式15回) (11 坂井清隆/12回) 第1回及び第5回～9回を担当し、生徒の学びを促進させる学習デザインの構想や学習のための評価論について論じる。また、第10回～15回を担当し、本科目の学修の見直しを持たせつつ生徒の学びを促進させる社会科学習デザイン構想とその交流を行わせ、指導助言を行う。 (36 石丸哲史/3回) 第2回～4回を担当し、中等社会科教育及び高等学校地歴科公民科の教材論、指導と評価の一体化の具体について論じる。</p>	<p>オムニバス</p>
<p>授業実践と評価の研究 I a（数学科）</p>	<p>〈目標〉 中学校数学科の教科や領域の特性および生徒の実態に応じた授業について自ら考案して授業実践を行うとともに、その成果と課題を踏まえて修正案を作成することができる。</p> <p>〈概要〉 中学校数学科の四領域の中から1つまたは2つの領域に焦点を当て、教科や領域の特性および生徒の実態に応じた授業構想や教材開発を行う。また、TA実践インターンシップにおいて授業を実施し、実施した授業から自らの特性と課題を見出し、改善案を考案する。 (共同方式15回) (48 岩田耕司/15回) 全体を統括すると共に、専門的な知識、技能及び専門性をふまえた授業改善案が作成できるように指導する。 (18 若松英昭/15回) 副担当として、具体的な指導実践を基にその成果や課題をふまえた修正案を作成できるように指導する。</p>	<p>共同</p>

<p>授業実践と評価の研究 I a (理科)</p>	<p>〈目標〉 中学校理科第1分野の内容特性及び中学校生徒の実態に応じた授業を自ら考案して授業実践を行う。また、その成果と課題をもとに、主体的・対話的で深い学びを実現する理科授業を評価の観点を踏まえて構想することができる。</p> <p>〈概要〉 理科の教科特性や中学校の生徒の実態に応じた授業実践上の課題について考察する。また、評価計画や評価方法、教材開発、授業展開の工夫などを検討する。さらに、TA実践インターンシップ実習において実践する授業を構想し、実践した授業を分析するとともに、修正案を作成する。</p> <p>(オムニバス方式15回)</p> <p>(59 森藤義孝・52 坂本憲明・61 甲斐初美/5回)</p> <p>全授業15回の内、第1回～5回を担当し、「中学校理科第1分野の内容特性」及び「中学校理科第1分野の授業における評価の検討」をテーマにした講義・演習を行う。</p> <p>(59 森藤義孝・52 坂本憲明・61 甲斐初美/10回)</p> <p>全授業15回の内、第6回～15回を担当し、「中学校理科第1分野における授業の評価計画や評価方法、教材開発、授業展開の工夫」をテーマにした講義・演習を行う。</p>	<p>オムニバス</p>
<p>授業実践と評価の研究 I a (英語科)</p>	<p>〈目標〉 専門教科の教科特性及び中学校の生徒の実態に応じた授業について自ら考案して授業実践を行うとともに、その成果と課題を踏まえて修正案を作成することができる。</p> <p>〈概要〉 国語科・社会科・数学科・理科・英語科・保健体育科から専門教科を1教科選択し、教科特性や中学校の生徒の実態に応じた授業実践上の課題について考察する。また、教材開発や授業展開の工夫などを担当教員のもとで学ぶとともに、TA実践インターンシップにおいて実践した授業を分析し、修正案を作成する。</p> <p>(共同方式/全15回)</p> <p>(9 森千鶴/15回)</p> <p>学習指導要領の検討や、「コミュニケーション活動」及び「聞くこと」「話すこと」「読むこと」「書くこと」領域および技能統合の実践的検討について主に担当する。</p> <p>(25 井之上浩幸/15回)</p> <p>タスク活動と4技能統合の検討や学習指導構想とその検討について、実践的視点から担当する。</p> <p>(63 江頭理江/15回)</p> <p>「文法指導とコミュニケーション活動」及び「聞くこと」「話すこと」「読むこと」「書くこと」領域の実践的検討について、主に担当する。</p>	<p>共同</p>
<p>授業実践と評価の研究 I a (保健体育科)</p>	<p>〈目標〉 中学校保健体育科の教科や領域の特性および生徒の実態に応じた授業について自ら考案して授業実践を行うとともに、その成果と課題を踏まえて修正案を作成することができる。</p> <p>〈概要〉 中学校保健体育科の体育領域に焦点を当て、教科や領域の特性および生徒の実態に応じた授業構想や教材開発を行う。また、TA実践インターンシップにおいて授業を実施し、実施した授業から自らの特性と課題を見出し、改善案を考案する。</p>	
<p>授業実践と評価の研究 I b (国語科)</p>	<p>〈目標〉 中学校国語科の教科特性及び中学校の生徒の実態に応じた授業について自ら考案して授業実践を行うとともに、その成果と課題を踏まえ、生徒個々の伸長の点から、授業を見直すことができる。</p> <p>〈概要〉 生徒個々の特性を踏まえ、学習指導を考案することについて、具体的に考える。「学校における実習」において実践した授業を用いて、個別化と個性化の視点から授業案の改善を行う。</p>	

<p>授業実践と評価の研究 1b (社会科)</p>	<p>〈目標〉 中学校社会科または高等学校地歴科公民科の教科特性及び中学校、高等学校の生徒の実態に応じた授業について自ら考案して授業実践を行うとともに、その成果と課題を踏まえて修正案を作成することができる。</p> <p>〈概要〉 中学校社会科または高等学校地歴科公民科の教科特性や中学校、高等学校の生徒の実態に応じた授業実践上の課題について考察する。また、教材(単元)開発や授業展開の工夫などを担当教員のもとで学び、実践するとともに、実践した授業を、授業記録や映像に基づいて分析し、修正案を作成する。特に受講者が領域を選択して単元開発と実践を行う。 (オムニバス・共同方式15回) (11 坂井清隆/3回) 第1回～3回を担当し、高等学校地歴科公民科の教材論、指導と評価の一体化の具体について論じる。 (37 豊島啓司・36 石丸哲史・38 小川亜弥子・40 杉村伸二・13 小田泰司・41 谷本純一・39 小林知子・42 久本貴志/10回) 第4回～13回を担当し、受講者のテーマ別活動を支援する。 (21 学生修一/2回) 第14回～15回を担当し、テーマ別活動で構想し実践した内容に関して交流させ、改善案に関して指導助言を行う。</p>	<p>オムニバス・共同</p>
<p>授業実践と評価の研究 1b (数学科)</p>	<p>〈目標〉 中学校数学科の教科や領域の特性および生徒の実態に応じた授業について自ら考案して授業実践を行うとともに、その成果と課題を踏まえて修正案を作成することができる。</p> <p>〈概要〉 中学校数学科の四領域の中から1つまたは2つの領域に焦点を当て、教科や領域の特性および生徒の実態に応じた授業構想や教材開発を行う。また、TA実践インターンシップにおいて授業を実施し、実施した授業から自らの特性と課題を見出し、改善案を考案する。 (共同方式) (14 清水紀宏/15回) 全体を統括すると共に、専門的な知識、技能及び専門性をふまえた授業改善案が作成できるように指導する。 (18 若松英昭/15回) 副担当として、具体的な指導実践を基にその成果や課題をふまえた修正案を作成できるように指導する。</p>	<p>共同</p>
<p>授業実践と評価の研究 1b (理科)</p>	<p>〈目標〉 中学校理科第2分野の内容特性及び中学校生徒の実態に応じた授業を自ら考案して授業実践を行う。また、その成果と課題をもとに、主体的・対話的で深い学びを実現する理科授業を評価の視点を踏まえて構想することができる。</p> <p>〈概要〉 理科の教科特性や中学校の生徒の実態に応じた授業実践上の課題について考察する。また、評価計画や評価方法、教材開発、授業展開の工夫などを検討する。さらに、TA実践インターンシップ実習において実践する授業を構想し、実践した授業を分析するとともに、修正案を作成する。 (オムニバス方式15回) (59 森藤義孝・52 坂本憲明・61 甲斐初美/5回) 全授業15回の内、第1回～6回を担当し、「中学校理科第2分野の内容特性」及び「中学校理科第2分野の授業における評価の検討」をテーマにした講義・演習を行う。 (5 西野秀昭/10回) 全授業15回の内、第6回～15回を担当し、「中学校理科第2分野における授業の評価計画や評価方法、教材開発、授業展開の工夫」をテーマにした講義・演習を行う。</p>	<p>オムニバス</p>
<p>授業実践と評価の研究 1b (英語科)</p>	<p>〈目標〉 英語科の教科特性及び中学校の生徒の実態に応じた授業について自ら授業実践を考案するとともに、その成果と課題を踏まえて、評価の点から授業を見直すことができる。</p> <p>〈概要〉 英語科における学びをサポートする評価について、能力分析と年間指導計画、3年間を見通した指導計画を関連させながら、学習者の状態を捉え指導に反映する評価活動について担当教員のもとで学ぶとともに、授業や評価の具体案を作成し、改善案を作成する。加えて、試験問題の作成、生徒に対する評価説明資料を作成する。 (オムニバス・一部共同方式 15回) (9 森千鶴/7回) 英語科における評価観の変遷、指導と評価の一体化、学びをサポートする評価について担当する。 (25 井之上浩幸/9回) 能力分析や学びの系統、個人別テーマ学習における年間指導計画や単元計画検討について担当する。</p>	<p>オムニバス・共同</p>

<p>授業実践と評価の研究Ⅰb（保健体育科）</p>	<p>〈目標〉 中学校保健体育科の教科や領域の特性および生徒の実態に応じた授業について自ら考案して授業実践を行うとともに、その成果と課題を踏まえて修正案を作成することができる。</p> <p>〈概要〉 中学校保健体育科の保健領域に焦点を当て、教科や領域の特性および生徒の実態に応じた授業構想や教材開発を行う。また、TA実践インターンシップにおいて授業を実施し、実施した授業から自らの特性と課題を見出し、改善案を考案する。 （共同方式 15回） （73 樋口善之/15回） 全体を統括するとともに、保健領域の専門的な知識・技能および専門性を踏まえた教材研究・授業づくりの方法について指導する。 （15 本多壮太郎/15回） 体育領域の専門的な知識・技能および専門性を踏まえた教材研究・授業づくりの方法について指導する。</p>	<p>共同</p>
<p>授業実践と評価の研究Ⅱ（国語科）</p>	<p>〈目標〉 高等学校国語科の教科特性及び高等学校の生徒の実態に応じた授業について自ら考案して授業実践を行うとともに、その成果と課題を踏まえて改善案を作成することができる。</p> <p>〈概要〉 高等学校国語科の、いわゆる「現代文」（文学教材、評論教材）および「言語」領域について、専門的な知識および研究方法を理解し、それをふまえた教材研究および学習指導案の作成に取り組む。 （オムニバス共同方式15回） （30 久保田裕子/11回） オリエンテーションおよびまとめを共同で担当するとともに、教材研究の基盤となる専門的な知識および研究方法について。（文学教材および評論教材を中心に） （33 荻野千砂子/8回） オリエンテーションおよびまとめを共同で担当するとともに、教材研究の基盤となる専門的な知識および研究方法について。（言語を中心に）専門性をふまえた教材研究および学習指導構想について。 （1 青山之典/6回） オリエンテーションおよびまとめを共同で担当するとともに、対象領域の学習指導要領での位置づけと、専門性をふまえた教材研究および学習指導構想について。</p>	<p>オムニバス・共同</p>
<p>授業実践と評価の研究Ⅱ（社会科）</p>	<p>〈目標〉 中等社会科または高等学校地歴科公民科の教科特性（地理・歴史・公民分野 地歴科・公民科）及び中学校、高等学校の生徒の実態に応じた授業について自ら考案して授業実践を行うとともに、その成果と課題を踏まえて修正案を作成することができる。また、学習評価について理解を深める。</p> <p>〈概要〉 中等社会科または高等学校地歴科公民科の教科特性（地理・歴史・公民分野 地歴科・公民科）や高等学校の生徒の実態に応じた授業実践上の課題について考察する。また、教材開発や授業展開の工夫などを担当教員のもとで学ぶとともに、生徒の学びの実態を把握しつつ、TA実践インターンシップにおいて実践した授業を分析し、修正案を作成する。 （オムニバス方式15回） （11 坂井清隆/4回） 第1回及び13回～15回を担当し、第1回で本科目の学修の見通しを持たせ、後半3回では、単元構想作成や演習（実践交流）において指導助言を行う。 （36 石丸哲史/3回） 第3回～5回を担当し、人文地理に関わる教材研究の基礎となる知識や理論の習得及び具体的な教材について論じる。 （38 小川亜弥子/3回） 第2回を担当し、中等社会科または高等学校地歴科公民科の教科特性について論じ、第6回～7回では、主として日本史に関わる教材研究の基礎となる知識や理論の習得及び具体的な教材について論じる。 （40 杉村伸二/2回） 第8回～9回を担当し、主として世界史に関わる教材研究の基礎となる知識や理論の習得及び具体的な教材について論じる。 （37 豊島啓司/3回） 第10～12回を担当し、主として公共に関わる教材研究の基礎となる知識や理論の習得及び具体的な教材について論じる。</p>	<p>オムニバス</p>

<p>授業実践と評価の研究Ⅱ（数学科）</p>	<p>〈目標〉 高等学校数学科における教科や領域の特性および生徒の実態に応じた授業について自ら考案して授業実践を行うとともに、その成果と課題を踏まえて修正案を作成することができる。</p> <p>〈概要〉 高等学校で実際に指導されている指導内容や教材を取り上げ、指導内容の専門的背景についての理解を深める。さらに、高等学校数学科の教科内容や教材と数学専門とのつながりを意識しながら教材研究や授業研究が行えるような教科指導力を養成する。</p> <p>（オムニバス・一部共同方式/全15回） （43 岩元隆/15回） 「幾何学」を中心として、教材研究の基盤となる専門的な知識および専門性をふまえた教材研究の方法について指導する。 （45 原卓哉/15回） 「解析学」を中心として、教材研究の基盤となる専門的な知識および専門性をふまえた教材研究の方法について指導する。 （46 藤本光史/15回） 「コンピュータ」を中心として、教材研究の基盤となる専門的な知識および専門性をふまえた教材研究の方法について指導する。 （44 中田寿夫/15回） 「確率論・統計学」を中心として、教材研究の基盤となる専門的な知識および専門性をふまえた教材研究の方法について指導する。 （49 岡崎亮太/15回） 「代数学」を中心として、教材研究の基盤となる専門的な知識および専門性をふまえた教材研究の方法について指導する。 （48 岩田耕司/4回） 取り上げた指導内容や教材の学習指導要領での位置づけと、専門性をふまえた教材研究および学習指導構想について指導する。 オリエンテーションは6名でおこなう。</p>	<p>オムニバス・共同</p>
<p>授業実践と評価の研究Ⅱ（理科）</p>	<p>〈目標〉 理科の教科特性及び高等学校の生徒の実態に応じた授業について自ら考案して授業実践を行うとともに、その成果と課題を踏まえて修正案を作成することができる。</p> <p>〈概要〉 理科の教科特性や高等学校の生徒の実態に応じた授業実践上の課題について考察する。また、教材開発や授業展開の工夫などを担当教員のもとで学ぶとともに、TA実践インターンシップにおいて実践した授業を分析し、修正案を作成する。</p> <p>（共同・オムニバス方式15回） （59 森藤義孝、52 坂本憲明、61 甲斐初美/共同11回、オムニバス2回） 教科教育の視点から、理科の教科としての特性や、高等学校の生徒の実態に応じた授業実践上の課題について考察するための指導を行う。 （物理は56 松崎昌之・57 三谷尚、化学は54 長澤五十六・58 宮崎義信・50 伊藤克治・62 小杉健太郎、生物は53 鈴木浩文・5 西野秀昭・55 福原達人・60 山崎聖司、地学は51 金光理/共同11回、オムニバス2回） 教科専門の視点から、各分野での教材開発や授業展開の工夫などの指導を行う。</p>	<p>共同・オムニバス</p>
<p>授業実践と評価の研究Ⅱ（英語科）</p>	<p>〈目標〉 英語科の教科特性及び生徒の実態に応じた授業について自ら授業実践を構想することができる。また、それらの成果と課題を踏まえて具体的な修正案を提案することができる。</p> <p>〈概要〉 英語科の教科特性や生徒の実態に応じた授業実践上の課題について考察する。とりわけ、4技能の評価及び、コミュニケーション重視の英語教育としての4技能統合型授業に関わる具体について取り上げる。技能統合型のモデル授業検討を通して、授業分析、修正案の提案に取り組む。</p> <p>（オムニバス・一部共同方式/全15回） （9 森千鶴/11回） コミュニケーション重視の教授方法、4技能の評価について担当する。 （25 井之上浩幸/10回） コミュニケーション重視の英語教育の実践的構想や、モデル授業の検討・実践、振り返りを担当する。</p>	<p>オムニバス・共同</p>

<p>授業実践と評価の研究Ⅱ（保健体育科）</p>	<p>〈目標〉 高等学校保健体育科における教科や領域の特性および生徒の実態に応じた授業について自ら考案して授業実践を行うとともに、その成果と課題を踏まえて修正案を作成することができる。</p> <p>〈概要〉 運動学関係の教科に関する専門的事項に焦点をあてて、高等学校で実際に指導されている指導内容や教材を取り上げ、指導内容の専門的背景についての理解を深める。さらに、高等学校保健体育科の教科内容や教材と保健体育専門とのつながりを意識しながら教材研究や授業研究が行えるような教科指導力を養成する。 (オムニバス・一部共同方式/全15回) (26 松崎治一/4回) 第1回および第13～15回を担当し、授業のオリエンテーションおよび授業づくりに関する指導を統括する。 (71 清水知恵/15回) 「ダンス」を中心とした専門的な知識・技能および専門性をふまえた教材研究・授業づくりの方法について指導する。 (72 檜崎教子/15回) 「柔道」を中心とした専門的な知識・技能および専門性をふまえた教材研究・授業づくりの方法について指導する。</p> <p>第1回のオリエンテーションは全員で行うが、第2～15回については、履修生が選択する1つの領域に焦点を絞り、指導を行う。</p>	<p>オムニバス・共同</p>
<p>授業実践と評価の研究Ⅲ（国語科）</p>	<p>〈目標〉 高等学校国語科の教科特性及び高等学校の生徒の実態に応じた授業について自ら考案して授業実践を行うとともに、その成果と課題を踏まえて改善案を作成することができる。</p> <p>〈概要〉 高等学校国語科の、いわゆる「古文」領域について、専門的な知識および研究方法を理解し、それをふまえた教材研究および学習指導案の作成に取り組む。 (オムニバス・共同方式15回) (29 菊池庸介/8回) オリエンテーションおよびまとめを共同で担当するとともに、教材研究の基盤となる専門的な知識および研究方法について。(近世を中心に) 専門性をふまえた教材研究および学習指導構想について。 (35 沼尻利通/8回) オリエンテーションおよびまとめを共同で担当するとともに、教材研究の基盤となる専門的な知識および研究方法について。(中古を中心に) 専門性をふまえた教材研究および学習指導構想について。 (27 勝又隆/8回) オリエンテーションおよびまとめを共同で担当するとともに、教材研究の基盤となる専門的な知識および研究方法について。(古典文法を中心に) 専門性をふまえた教材研究および学習指導構想について。 (1 青山之典/6回) オリエンテーションおよびまとめを共同で担当するとともに、対象領域の学習指導要領での位置づけと、専門性をふまえた教材研究および学習指導構想について。</p>	<p>オムニバス・共同</p>
<p>授業実践と評価の研究Ⅲ（社会科）</p>	<p>〈目標〉 中等社会科または高等学校地歴科、公民科の教科特性（特に地理・歴史分野 地歴科）及び中学校、高等学校の生徒の実態に応じた授業について自ら考案して授業実践を行うとともに、その成果と課題を踏まえて修正案を作成することができる。また学習評価について理解を深める。</p> <p>〈概要〉 中等社会科または高等学校地歴科公民科の教科特性（特に地理・歴史分野 地歴科）や中学校、高等学校の生徒の実態に応じた授業実践上の課題について考察する。また、教材開発や授業展開の工夫などを担当教員のもとで学ぶとともに、生徒の学びの実態を把握しつつ、TA実践インターンシップにおいて実践した授業を分析し、修正案を作成する。また、生徒の学びに関する評価テストの作成を行う。 (オムニバス方式15回) (21 学生修一/6回) 第1回を担当し、学修の見直しをもたせる。後半5回は、「地理総合」「歴史総合」の単元構想作成や演習（実践交流）において指導助言を行う。 (36 石丸哲史/4回) 第3回～6回を担当し、3回、4回では日本地理、5回、6回では世界地理に関わる教材研究の基礎となる知識や理論の習得及び具体的な教材について論じる。 (38 小川亜弥子/2回) 第7回～8回を担当し、主として日本史に関わる教材研究の基礎となる知識や理論の習得及び具体的な教材について論じる。 (40 杉村伸二/3回) 第2回を担当し、高等学校地歴科「地理総合」「歴史総合」の教科特性について論じる。また、第9回～10回を担当し、主として世界史に関わる教材研究の基礎となる知識や理論の習得及び具体的な教材について論じる。</p>	<p>オムニバス</p>

<p>授業実践と評価の研究Ⅲ（数学科）</p>	<p>〈目標〉 高等学校数学科における教科や領域の特性および生徒の実態に応じた授業について自ら考案して授業実践を行うとともに、その成果と課題を踏まえて修正案を作成することができる。</p> <p>〈概要〉 高等学校で実際に指導されている指導内容や教材を取り上げ、指導内容の専門的背景についての理解を深める。さらに、高等学校数学科の教科内容や教材と数学専門とのつながりを意識しながら教材研究や授業研究が行えるような教科指導力を養成する。</p> <p>（オムニバス・一部共同方式/全15回） （43 岩元隆/15回） 「幾何学」を中心として、教材研究の基盤となる専門的な知識および専門性をふまえた教材研究の方法について指導する。 （45 原卓哉/15回） 「解析学」を中心として、教材研究の基盤となる専門的な知識および専門性をふまえた教材研究の方法について指導する。 （46 藤本光史/15回） 「コンピュータ」を中心として、教材研究の基盤となる専門的な知識および専門性をふまえた教材研究の方法について指導する。 （44 中田寿夫/15回） 「確率論・統計学」を中心として、教材研究の基盤となる専門的な知識および専門性をふまえた教材研究の方法について指導する。 （49 岡崎亮太/15回） 「代数学」を中心として、教材研究の基盤となる専門的な知識および専門性をふまえた教材研究の方法について指導する。 （14 清水紀宏/4回） 取り上げた指導内容や教材の学習指導要領での位置づけと、専門性をふまえた教材研究および学習指導構想について指導する。 オリエンテーションは6名でおこなう。</p>	<p>オムニバス・共同</p>
<p>授業実践と評価の研究Ⅲ（理科）</p>	<p>〈目標〉 理科の教科特性及び高等学校の生徒の実態に応じた授業について自ら考案して授業実践を行うとともに、その成果と課題を踏まえて修正案を作成することができる。</p> <p>〈概要〉 理科教科特性や高等学校の生徒の実態に応じた授業実践上の課題について考察する。また、教材開発や授業展開の工夫などを担当教員のもとで学ぶとともに、TA実践インターンシップにおいて実践した授業を分析し、修正案を作成する。</p> <p>（共同・オムニバス方式15回） （59 森藤義孝、52 坂本憲明、61 甲斐初美/共同11回、オムニバス2回） 教科教育の観点から、理科の教科としての特性や、高等学校の生徒の実態に応じた授業実践上の課題について考察するための指導を行う。 （物理は56 松崎昌之・57 三谷尚、化学は54 長澤五十六・58 宮崎義信・50 伊藤克治・62 小杉健太郎、生物は53 鈴木浩文・5 西野秀昭・55 福原達人・60 山崎聖司、地学は51 金光理/共同11回、オムニバス2回） 教科専門の観点から、各分野での教材開発や授業展開の工夫などの指導を行う。</p>	<p>共同・オムニバス</p>
<p>授業実践と評価の研究Ⅲ（英語科）</p>	<p>〈目標〉 英語科の教科特性及び生徒の実態に応じた授業について、自ら具体的な教材に即した授業実践を考案するとともに、その成果と課題を踏まえて修正案を作成することができる。</p> <p>〈概要〉 英語科の教科特性や生徒の実態に応じた授業実践上の課題について考察する。いわゆる「読むこと」領域（文学的文章教材・説明的文章教材）、「言語」領域（文法・コミュニケーション）について、専門的な知識および研究方法を理解し、それらをふまえた教材研究および学習指導案の作成に取り組む。特に、高等学校の「コミュニケーション英語Ⅰ」や「英語表現Ⅰ」について取り扱う。</p> <p>（一部共同方式15回） （66 吉武正樹/15回） 文学的文章教材・説明的文章教材、コミュニケーションに関わる基礎について担当する。 （25 井之上浩幸/7回） 学習指導要領における位置づけや、学習指導案の作成とその検討について検討する。</p>	<p>共同</p>

<p>授業実践と評価の研究Ⅲ（保健体育科）</p>	<p>〈目標〉 高等学校保健体育科における教科や領域の特性および生徒の実態に応じた授業について自ら考案して授業実践を行うとともに、その成果と課題を踏まえて修正案を作成することができる。</p> <p>〈概要〉 健康教育学関係の教科に関する専門的事項に焦点をあてて、高等学校で実際に指導されている指導内容や教材を取り上げ、指導内容の専門的背景についての理解を深める。さらに、高等学校保健体育科の教科内容や教材と保健体育専門とのつながりを意識しながら教材研究や授業研究が行えるような教科指導力を養成する。</p> <p>（オムニバス・共同方式15回） （26 松崎治一/4回）第1回および第13～15回を担当し、授業のオリエンテーションおよび授業づくりに関する指導を統括する。 （68 市丸直人/15回）「球技」を中心とした専門的な知識・技能および専門性をふまえた教材研究・授業づくりの方法について指導する。 （69 片平誠人/15回）「陸上競技」を中心とした専門的な知識・技能および専門性をふまえた教材研究・授業づくりの方法について指導する。</p> <p>第1回のオリエンテーションは全員で行うが、第2～15回については、履修生が選択する1つの領域に焦点を絞り、指導を行う。</p>	<p>オムニバス・共同</p>
<p>授業実践と評価の研究Ⅳ（国語科）</p>	<p>〈目標〉 高等学校国語科の教科特性及び高等学校の生徒の実態に応じた授業について自ら考案して授業実践を行うとともに、その成果と課題を踏まえて改善案を作成することができる。</p> <p>〈概要〉 高等学校国語科の、いわゆる「漢文」領域について、専門的な知識および研究方法を理解し、それをふまえた教材研究および学習指導案の作成に取り組む。</p> <p>（オムニバス・共同方式/全15回） （31 鶴成久章/8回） オリエンテーションおよびまとめを共同で担当するとともに、教材研究の基盤となる専門的な知識および研究方法について。（漢詩および思想を中心に） （34 竹元規人/8回） オリエンテーションおよびまとめを共同で担当するとともに、教材研究の基盤となる専門的な知識および研究方法について。（史伝を中心に）専門性をふまえた教材研究および学習指導構想について。 （10 若木常佳/6回） オリエンテーションおよびまとめを共同で担当するとともに、対象領域の学習指導要領での位置づけと、専門性をふまえた教材研究および学習指導構想について。</p>	<p>オムニバス・共同</p>
<p>授業実践と評価の研究Ⅳ（社会科）</p>	<p>〈目標〉 中等社会科または高等学校地歴科、公民科の教科特性（特に公民分野 公民科）及び中学校、高等学校の生徒の実態に応じた授業について自ら考案して授業実践を行うとともに、その成果と課題を踏まえて修正案を作成することができる。また学修のための評価について理解を深める。</p> <p>〈概要〉 中等社会科または高等学校地歴科、公民科の教科特性（特に公民分野 公民科）や中学校、高等学校の生徒の実態に応じた授業実践上の課題について考察する。また、教材開発や授業展開の工夫などを担当教員のもとで学ぶとともに、生徒の学びの実態を把握しつつ、TA実践インターンシップにおいて実践した授業を分析し、修正案を作成する。また、生徒の学びを促進させる評価テストの作成を行う。</p> <p>（オムニバス／一部共同方式15回） （21 芋生修一/5回） 第1回を担当し、高等学校公民科の教科特性の概論について講義を行い、学修のねらいを持たせる。また、第12～15回を担当し、「公共」「倫理」「政治・経済」の単元構想作成や演習（実践交流）において指導助言を行う。 （37 豊蔭啓司・13 小田泰司・41 谷本純一・42 久本貴志・39 小林知子/3回共同） 第3回～5回を担当し、公民科に関わる教材研究の基礎となる知識や理論の習得及び具体的な教材について論じる。 （21 芋生修一/2回） 第6回～7回を担当し、主として倫理に関わる教材研究の基礎となる知識や理論の習得及び具体的な教材について論じる。 （13 小田泰司/3回） 第2回を担当し、高等学校公民科の教科特性の概論について講義を行う。また、第8回～9回を担当し、主として政治に関わる教材研究の基礎となる知識や理論の習得及び具体的な教材について論じる。 （42 久本貴志/2回） 第10～11回を担当し、主として経済に関わる教材研究の基礎となる知識や理論の習得及び具体的な教材について論じる。</p>	<p>オムニバス・共同</p>

	<p>授業実践と評価の研究Ⅳ（数学科）</p>	<p>〈目標〉 高等学校数学科における教科や領域の特性および生徒の実態に応じた授業について自ら考案して授業実践を行うとともに、その成果と課題を踏まえて修正案を作成することができる。</p> <p>〈概要〉 高等学校で実際に指導されている指導内容や教材を取り上げ、指導内容の専門的背景についての理解を深める。さらに、高等学校数学科の教科内容や教材と数学専門とのつながりを意識しながら教材研究や授業研究が行えるような教科指導力を養成する。</p> <p>（オムニバス・共同方式15回） (43 岩元隆/15回) 「幾何学」を中心として、教材研究の基盤となる専門的な知識および専門性をふまえた教材研究の方法について指導する。 (45 原卓哉/15回) 「解析学」を中心として、教材研究の基盤となる専門的な知識および専門性をふまえた教材研究の方法について指導する。 (46 藤本光史/15回) 「コンピュータ」を中心として、教材研究の基盤となる専門的な知識および専門性をふまえた教材研究の方法について指導する。 (44 中田寿夫/15回) 「確率論・統計学」を中心として、教材研究の基盤となる専門的な知識および専門性をふまえた教材研究の方法について指導する。 (49 岡崎亮太/15回) 「代数学」を中心として、教材研究の基盤となる専門的な知識および専門性をふまえた教材研究の方法について指導する。 (47 今井一仁/4回) 取り上げた指導内容や教材の学習指導要領での位置づけと、専門性をふまえた教材研究および学習指導構想について指導する。 オリエンテーションは6名でおこなう。</p>	<p>オムニバス・共同</p>
	<p>授業実践と評価の研究Ⅳ（理科）</p>	<p>〈目標〉 理科の教科特性及び高等学校の生徒の実態に応じた授業について自ら考案して授業実践を行うとともに、その成果と課題を踏まえて修正案を作成することができる。</p> <p>〈概要〉 理科の教科特性や高等学校の生徒の実態に応じた授業実践上の課題について考察する。また、教材開発や授業展開の工夫などを担当教員のもとで学ぶとともに、TA実践インターンシップにおいて実践した授業を分析し、修正案を作成する。</p> <p>（共同・一部オムニバス方式15回） (59 森藤義孝、52 坂本憲明、61 甲斐初美/共同11回、オムニバス2回) 教科教育の観点から、理科の教科としての特性や、高等学校の生徒の実態に応じた授業実践上の課題について考察するための指導を行う。 (物理は56 松崎昌之・57 三谷尚、化学は54 長澤五十六・58 宮崎義信・50 伊藤克治・62 小杉健太郎、生物は53 鈴木浩文・5 西野秀昭・55 福原達人・60 山崎聖司、地学は51 金光理/共同11回、オムニバス2回) 教科専門の観点から、各分野での教材開発や授業展開の工夫などの指導を行う。</p>	<p>共同・オムニバス</p>
	<p>授業実践と評価の研究Ⅳ（英語科）</p>	<p>〈目標〉 英語科の教科特性及び生徒の実態に応じた授業について自ら具体的な教材に即した授業実践を考案するとともに、その成果と課題を踏まえて修正案を作成することができる。</p> <p>〈概要〉 英語科の教科特性や生徒の実態に応じた授業実践上の課題について考察する。いわゆる「読むこと」領域（文学的文章教材・説明的文章教材）、「言語」領域（文法・コミュニケーション）について、専門的な知識および研究方法を理解し、それらをふまえた教材研究および学習指導案の作成に取り組む。特に、高等学校の「コミュニケーション英語Ⅱ・Ⅲ」や「英語表現Ⅱ・Ⅲ」について取り扱う。</p> <p>（共同方式/全15回） (63 江頭理江/15回) 主に文学的文章教材・説明的文章教材と実践との関わりについて担当する。 (66 吉武正樹/15回) 主にコミュニケーション・文法に関わる教材と実践との関わりについて担当する。 (25 井之上浩幸/7回) 学習指導要領における位置づけ、学習指導案の作成等の実践的検討を担当する。</p>	<p>共同</p>
	<p>授業実践と評価の研究Ⅳ（保健体育科）</p>	<p>〈目標〉 高等学校保健体育科における教科や領域の特性および生徒の実態に応じた授業について自ら考案して授業実践を行うとともに、その成果と課題を踏まえて修正案を作成することができる。</p> <p>〈概要〉 体育理論・体育学関係の教科に関する専門的事項に焦点をあてて、高等学校で実際に指導されている指導内容や教材を取り上げ、指導内容の専門的背景についての理解を深める。さらに、高等学校保健体育科の教科内容や教材と保健体育専門とのつながりを意識しながら教材研究や授業研究が行えるような教科指導力を養成する。</p> <p>（共同方式15回） (26 松崎治一/4回) 第1回および第13～15回を担当し、授業のオリエンテーションおよび授業づくりに関する指導を統括する。 (70 榎原浩晃/15回) 「体育理論」を中心とした専門的な知識・技能および専門性をふまえた教材研究・授業づくりの方法について指導する。</p>	<p>共同</p>

	<p>教科教育における授業実践の研究</p>	<p>〈目標〉 教科の特性に応じた授業について自ら考案して授業実践を行うとともに、その成果と課題を踏まえて修正案を作成することができる。</p> <p>〈概要〉 院生が希望教科を選択して、教材開発や授業展開の工夫などを教科担当教員のもとで学ぶとともに、TA実践インターンシップにおいて実践した授業を分析し、修正案を作成することを通して、教科指導の実践力を総合的に向上させる。</p> <p>(共同方式15回) (国語は1 青山之典・10 若木常佳, 社会は11 坂井清隆・21 芋生修一・22 川島耕司、数学は17 森保之・18 若松英昭・23 主税保徳、理科は8 村田育也、英語は25 井之上浩幸、保健体育は26 松崎治一、技術は88 有川誠、家庭は89 貴志倫子、美術は87 笹原浩仁、音楽は86 山中和佳子、道徳は12 兼安章子/15回)</p>	<p>共同</p>
	<p>カリキュラムマネジメントのPDCA</p>	<p>〈目標〉 カリキュラムマネジメントに関する理論や先進的な手法について理解するとともに、今日の教育改革などの動向を踏まえ、新しい学校教育の展開に向けた特色あるカリキュラムを構想・提案することで、カリキュラムマネジメントの能力を高める。</p> <p>〈概要〉 カリキュラムマネジメントに関する理論や先進的な手法について、教育改革の動向等も含めて講義やGTの講話を通じて学ぶ。自校のカリキュラムについて、その改善に向けて具体的なカリキュラムデザインや学年・教科等チームによるPDCAを開発・提案する。</p> <p>(共同方式15回) (16 田淵聡/15回) 講義内容におけるカリキュラムマネジメント、教育課程の評価に関する実践的指導能力の育成、院生の議論の主担当として支援する。 (24 峯田明子/15回) 講義内容におけるカリキュラムマネジメント、教育課程の評価に関する実践的指導能力の育成、院生の議論のファシリテーターとして支援する。</p>	<p>共同</p>
	<p>OJTとチームマネジメント</p>	<p>〈目標〉 校内研究を中心とした研究主任及び人材育成担当者としての研修担当者として、自ら率先して授業改善・校内研修開発を行い、同僚教員等の力量向上の指導的な立場を担う。</p> <p>〈概要〉 研究先進校・開発校、在籍校での具体的な実践事例の分析をもとに、グループディスカッションやプレゼンテーションをベースとした学習を行う。その際、各学校における人材育成計画を前提に、校内研修テーマ(授業改善・学力向上・生徒指導・特別支援教育等)を踏まえ、目標の具現化、方法の焦点化、指導法の開発、評価等、研究推進の基礎的な理論や実践を習得する。</p> <p>(共同方式15回) (16 田淵聡/15回) 主担当として、講義内容の理論的な講義、講義内容の再編、院生の議論のファシリテーターとして統括する。 (17 森保之/15回) 副担当として、講義内容の実践的指導能力の育成、院生の議論のファシリテーターとして支援する。</p>	<p>共同</p>
	<p>教科教育の理論と実践 I (国語科)</p>	<p>〈目標〉 高等学校国語科の指導の在り方を理解し、生徒の実態に応じて具体化したり、授業分析の視点として活用したりすることができる。</p> <p>〈概要〉 各教科等の指導に関する学習理論および学習指導要領・学習指導要領解説を手がかりにして、新しい時代に求められる各教科等の指導の在り方を考察する。また、授業観察や授業実践を通して、学習活動における教師の働きかけと学習者の反応の関係を分析・評価することで、授業改善の方途を探る。特に、高等学校国語科における「読むこと」領域と「書くこと」領域を中心に、基盤となる目標論、学力論、評価論、学習理論を理解し、今後の学習指導に求められる要件や方向性をふまえて、学習指導のあり方を探究する。</p>	

<p>教科教育の理論と実践Ⅰ（社会科）</p>	<p>〈目標〉 高等学校地歴科公民科における教科目標や指導や教育内容、様々な指導方法を理解し、児童生徒の実態に応じて指導法を具体化したり、授業分析の視点として活用したりすることができる。</p> <p>〈概要〉 学習指導要領やその解説等から、新しい時代に求められる各教科等の指導の在り方を読み解き、各教科等の指導に関する教授・学習理論をもとに、新しい時代に求められる各教科等の指導の在り方を具体化する。また、授業観察や授業実践を通して、教授行為と学習活動の相互の関連を分析・評価することで、適切な教授行為と授業改善の方途を探る。高等学校地歴科公民科では、目的・目標のパラダイムと内容構成を学ぶ。特徴的な社会科授業を目標－内容－方法を視点に分析し、自他の授業実践を経験だけでなく論理的、原理的、分析的に位置づけ、改善していく力の基礎を養う。</p> <p>（オムニバス・一部共同方式15回） （11 坂井清隆/3回） 第1回～2回を担当し、受講者自身の社会科教育観（授業観・評価観）の捉え直しと指導要領の変遷と社会科教育の具体的把握、及び社会科の教育目的・目標のパラダイムと内容構成の関連について論じる。第15回を担当し、学修のまとめを行う。</p> <p>（36 石丸哲史・38 小川亜弥子・40 杉村伸二・13 小田泰司・41 谷本純一・42 久本貴志・39 小林知子/5回） 第3回～7回を担当し、高等学校における指導要領を踏まえつつ、地歴科公民科の改訂の意味について論じる。また、教材論についても論じる。</p> <p>（37 豊島啓司/4回） 第8回～11回を担当し、附属学校での先行事例に基づきつつ、真正な学び論について論じる。また、学習評価論について論じる。</p> <p>（21 芋生修一/3回） 第12回～14回を担当し、受講生が構想した単元や実践について交流させ指導助言を行う。</p>	<p>オムニバス・共同</p>
<p>教科教育の理論と実践Ⅰ（数学科）</p>	<p>〈目標〉 自らの専門とする数学科の指導の在り方を理解し、生徒の実態に応じて具体化したり、授業分析の視点として活用したりすることができる。</p> <p>〈概要〉 学習指導要領やその解説等から、新しい時代に求められる各教科等の指導の在り方を読み解き、各教科等の指導に関する教授・学習理論や先行研究・事例をもとに、新しい時代に求められる各教科等の指導の在り方を具体化する。また、異校種実習における授業観察や授業実践を通して、教授行為と学習活動の相互の関連を分析・評価することで、適切な教授行為と授業改善の方途を探る。</p> <p>（共同方式15回） （14 清水紀宏/15回） 全体を統括すると共に、専門的な知識、技能及び専門性をふまえた教材家延久・授業づくりの方法について指導する。</p> <p>（18 若松英昭/15回） 副担当として、具体的な指導観察や指導実践での分析・評価活動を通して、授業改善の方途について指導する。</p>	<p>共同</p>
<p>教科教育の理論と実践Ⅰ（理科）</p>	<p>〈目標〉 理科の指導の在り方を理解し、生徒の実態に応じて具体化したり、授業分析の視点として活用したりすることができる。</p> <p>〈概要〉 学習指導要領やその解説等から、新しい時代に求められる各教科等の指導の在り方を読み解き、各教科等の指導に関する教授・学習理論をもとに、新しい時代に求められる各教科等の指導の在り方を具体化したりする。また、授業観察・協議会参加や模擬授業実践を通して、教授行為と学習活動の相互の関連を分析・評価することで、適切な教授行為と授業改善の方途を探る。</p> <p>（共同・オムニバス方式15回） （59 森藤義孝/共同11回、オムニバス1回） 理科の指導の在り方を理解し、生徒の実態に応じて具体化したり、授業分析の視点として活用したりすることができるよう指導するとともに、授業参観事後指導を行う。</p> <p>（52 坂本憲明/共同11回、オムニバス2回） 理科の指導の在り方を理解し、生徒の実態に応じて具体化したり、授業分析の視点として活用したりすることができるよう指導するとともに、授業参観引率を行う。</p> <p>（61 甲斐初美/共同11回、オムニバス1回） 理科の指導の在り方を理解し、生徒の実態に応じて具体化したり、授業分析の視点として活用したりすることができるよう指導するとともに、授業参観事前指導を行う。</p>	<p>オムニバス・共同</p>

<p>教科教育の理論と実践Ⅰ（英語科）</p>	<p>〈目標〉 英語科における指導の在り方を理解し、生徒の実態に応じて具体化したり、授業分析の視点として活用したりすることができる。英語教育の変遷をふまえ、代表的な教授法を理解し、コミュニケーションの4技能向上を含む英語教育の在り方について、同僚の教科指導力の向上に資する支援と評価が行えるようになることを目指す。</p> <p>〈概要〉 学習指導要領やその解説等から、新しい時代に求められる英語科の指導の在り方を読み解き、各教科等の指導に関する教授・学習理論をもとに、新しい時代に求められる英語科の指導の在り方を具体化する。また、同僚等の授業観察や授業実践を通して、教授行為と学習活動の相互の関連を分析・評価することで、適切な教授行為と授業改善の方途を探る。</p> <p>（オムニバス・共同方式15回） （9 森千鶴/9回） コミュニケーション重視の指導法や評価の在り方について担当する。 （25 井之上浩幸/8回） 実践的授業構想やそれらのモデル実践について担当する。</p>	<p>オムニバス・共同</p>
<p>教科教育の理論と実践Ⅰ（保健体育科）</p>	<p>〈目標〉 自らの専門とする保健体育科の指導の在り方を理解し、生徒の実態に応じて具体化したり、授業分析の視点として活用したりすることができる。</p> <p>〈概要〉 学習指導要領やその解説等から、新しい時代に求められる保健体育科の指導の在り方を読み解き、保健体育科の指導に関する教授・学習理論をもとに、新しい時代に求められる保健体育科の指導の在り方を具体化する。さらに、高等学校で実際に指導されている体育領域の指導内容や教材を取り上げ、指導内容の専門的背景についての理解を深め、保健体育科における体育領域の指導の在り方を検討する。また、異校種実習における授業観察や授業実践を通して、教授行為と学習活動の相互の関連を分析・評価することで、適切な教授行為と授業改善の方途を探る。</p> <p>（共同方式15回） （67 兄井彰/15回） 全体を統括するとともに、体育領域の専門的な知識・技能および専門性を踏まえた教材研究・授業づくりの方法について指導する。 （15 本多壮太郎/15回） 副担当として、体育領域の専門的な知識・技能および専門性を踏まえた教材研究・授業づくりの方法について指導する。</p>	<p>共同</p>
<p>教科教育の理論と実践Ⅱ（国語科）</p>	<p>〈目標〉 高等学校国語科の指導上の課題を分析し、新しい教材や指導の改善策を考案することができる。</p> <p>〈概要〉 先行研究の検討や社会的要請の考察をもとに、教科等の指導上の課題を分析したり、教科等の指導上の課題や生徒のつまずき、誤概念、思考の傾向等をもとに、新しい教材や指導の改善策を考案したりする。また、授業観察や授業実践を通して、学習活動における教師の働きかけと学習者の反応の関係の分析・評価することで、授業改善の方途を探る。特に、高等学校国語科における「話すこと・聞くこと」領域と「読書」領域を中心に、基盤となる目標論、学力論、評価論、教授・学習理論を理解し、今後の学習指導に求められる要件や方向性をふまえて、学習指導のあり方を探究する。</p>	
<p>教科教育の理論と実践Ⅱ（社会科）</p>	<p>〈目標〉 これまでの高等学校地歴科公民科の指導上の課題を分析し、新しい教材・単元開発や指導の改善策を考案することができる。</p> <p>〈概要〉 各種学力調査の結果や先行研究等をもとに、教科等の指導上の課題を分析したり、教科等の指導上の課題や生徒のつまずき、誤概念、思考の傾向等をもとに、新しい教材や指導の改善策を考案したりする。また、授業観察や授業実践を通して、教授行為と学習活動の相互の関連を分析・評価することで、適切な教授行為と授業改善の方途を探る。</p> <p>新学習指導要領が示す高等学校地歴科、公民科の選択科目についての理解を深める。また、これまでの地理歴史科・公民科授業実践を批判的に分析し、そこでの教材の役割と教材研究の特質と課題を理解した上で、教材研究と生徒のつまずき、誤概念、思考の傾向等を視点に、資質能力の育成を目指した地歴科・公民科授業（単元）を構想する。</p> <p>（オムニバス・共同方式15回） （11 坂井清隆/6回） 第1回～6回を担当し、各種学力調査の結果の検討及び受講者のこれまでの実践および先行実践に関する批判的検討を行う。 （38 小川亜弥子・40 杉村伸二・13 小田泰司・42 久本貴志/3回）（共同） 第7回～9回を担当し、「日本史探究」「世界史探究」「倫理」「政治・経済」の教材化について指導助言を行う。また、第12回～15回を副担当し、高等学校地理歴史科公民科における選択科目の具体的な教材に即した学習指導構想（単元レベル）について指導助言を行う。 （22 川島耕司/6回） 第10回～15回を主に担当し、高等学校地理歴史科公民科における選択科目の具体的な教材に即した学習指導構想（単元レベル）について指導助言を行う。</p>	<p>オムニバス・共同</p>

<p>教科教育の理論と実践Ⅱ（数学科）</p>	<p>〈目標〉 自らの専門とする数学科の指導上の課題を分析し、新しい教材や指導の改善策を考案することができる。</p> <p>〈概要〉 自らの専門とする校種・教科等を対象として、各種学力調査の結果や先行研究等をもとに、指導上の課題を分析したり、指導上の課題や生徒のつまずき、誤概念、思考の傾向等をもとに、新しい教材や指導の改善策を考案したりする。また、授業観察や授業実践を通して、教授行為と学習活動の相互の関連を分析・評価することで、適切な教授行為と授業改善の方途を探る。</p> <p>（共同方式15回） （48 岩田耕司/15回） 全体を統括するとともに、専門的な知識、技能および専門性をふまえた教材研究や授業づくりの方策について指導する。</p> <p>（18 若松英昭/15回） 副担当として、指導上の課題を課題を分析したり、生徒のつまずき、思考の傾向等をもとに新しい教材や指導の改善策を考案できるように指導する。</p>	<p>共同</p>
<p>教科教育の理論と実践Ⅱ（理科）</p>	<p>〈目標〉 理科の指導上の課題を分析し、新しい教材や指導の改善策を考案することができる。</p> <p>〈概要〉 各種学力調査の結果や先行研究等をもとに、教科等の指導上の課題を分析したり、教科等の指導上の課題や生徒のつまずき、生徒の概念、思考の傾向等をもとに、新しい教材や指導の改善策を考案したりする。また、授業観察や授業実践を通して、教授行為と学習活動の相互の関連を分析・評価することで、適切な教授行為と授業改善の方途を探る。生徒の概念、思考の傾向等に関する研究文献を検索・講読し、その内容を把握する事から始める。</p> <p>（共同・オムニバス方式15回） （59 森藤義孝/共同11回、オムニバス1回） 理科の指導上の課題を分析し、新しい教材や指導の改善策を考案することができるよう指導するとともに、授業参観事後指導を行う。</p> <p>（52 坂本憲明/共同11回、オムニバス2回） 理科の指導上の課題を分析し、新しい教材や指導の改善策を考案することができるよう指導するとともに、授業参観引率を行う。</p> <p>（61 甲斐初美/共同11回、オムニバス1回） 理科の指導上の課題を分析し、新しい教材や指導の改善策を考案することができるよう指導するとともに、授業参観事前指導を行う。</p>	<p>オムニバス・共同</p>

<p>教科教育の理論と実践Ⅱ（英語科）</p>	<p>〈目標〉 学習指導要領の分析・「聞くこと」「話すこと」「読むこと」「書くこと」とそれら4技能の統合の在り方の検討・学習論と指導論をふまえた実践構想を行い、英語科の指導上の課題を分析しながら、新しい教材や指導の改善策を反映させた学習指導案を作成することを目標とする。</p> <p>〈概要〉 各種学力調査の結果や先行研究等をもとに、英語科の指導上の課題を分析したり、英語科の指導上の課題や生徒のつまずき、誤概念、思考の傾向等をもとに、新しい教材や指導の改善策を考案したりする。また、自身や同僚の授業観察や授業実践を通して、教授行為と学習活動の相互の関連を分析・評価することで、適切な教授行為と授業改善の方途を探る。</p> <p>（共同・オムニバス方式15回） （65 宮迫靖静/15回） 学習指導要領の位置づけや4技能統合の実践検討を担当する。 （25 井之上浩幸/6回） 学習論と評価論、実践的検討や学習指導案の作成を検討する。</p>	<p>共同・オムニバス</p>
<p>教科教育の理論と実践Ⅱ（保健体育科）</p>	<p>〈目標〉 自らの専門とする保健体育科の指導内容に関する専門的背景の理解を深め、それらを教科等の指導や教材研究、授業研究等へ反映することができる。</p> <p>〈概要〉 学習指導要領やその解説等から、新しい時代に求められる保健体育科の指導の在り方を読み解き、保健体育科の指導に関する教授・学習理論をもとに、新しい時代に求められる保健体育科の指導の在り方を具体化する。さらに、高等学校で実際に指導されている保健領域の指導内容や教材を取り上げ、指導内容の専門的背景についての理解を深め、保健体育科における保健領域の指導の在り方を検討する。その上で、体育領域と保健領域の双方に焦点を当てたこれからの保健体育科教育の在り方について考察する。</p> <p>（共同方式15回） （73 樋口善之/15回） 全体を統括するとともに、保健領域の専門的な知識・技能および専門性を踏まえた教材研究・授業づくりの方法について指導する。 （15 本多壮太郎/15回） 体育領域の専門的な知識・技能および専門性を踏まえた教材研究・授業づくりの方法について指導する。</p>	<p>共同</p>
<p>教科内容研究と教材開発Ⅰ（国語科）</p>	<p>〈目標〉 高等学校国語科の指導内容に関する専門的背景の理解を深め、それらを教科等の指導や教材研究、授業研究等へ反映することができる。</p> <p>〈概要〉 高等学校国語科に関する学問領域から1つの領域を選択し、その領域における中学校または高等学校で実際に指導されている指導内容や教材についての専門的背景についての理解を深める。特に、高等学校国語科における、いわゆる「現代文」領域（文学教材、評論教材）を主たる対象として、教材研究の基盤となる専門的な知識や研究方法について習得し、授業実践に結び付ける道筋を考察する。</p> <p>（オムニバス・共同方式15回） （30 久保田裕子/10回）オリエンテーションおよびまとめを共同で担当するとともに、教材研究の基盤となる専門的な知識や研究の方法について。 （10 若木常佳/7回）オリエンテーションおよびまとめを共同で担当するとともに、対象領域の学習指導要領での位置づけと、専門性をふまえた教材研究および学習指導構想について。</p>	<p>オムニバス・共同</p>
<p>教科内容研究と教材開発Ⅰ（社会科）</p>	<p>〈目標〉 高等学校地歴科の指導内容に関する専門的背景の理解を深め、それらを教科等の指導や教材研究、授業研究等へ反映することができる。</p> <p>〈概要〉 高等学校地理歴史科における必修科目「地理総合」「歴史総合」の教材の機能と役割を理解する。また、自らの実践知に基づいた授業分析と教材研究を通して、地理総合や歴史総合の教材開発を行うと共に単元を構想し実践する。</p> <p>（オムニバス方式15回） （22 川島耕司/4回） 第1回を担当し、本科目の学修の見通しをもたせる。第13～15回では、選択科目の具体的な教材に即した学習指導構想（単元レベル）及び模擬授業等を通した相互の検討・交流及び修正案について指導助言を行う。 （36 石丸哲史/4回） 第3回～6回を担当し、主として人文地理（日本地理・世界地理）に関わる教材研究の基礎となる知識や理論の習得及び具体的な教材の検討を行う。 （38 小川亜弥子/3回） 第7回～9回を担当し、主として日本史に関わる教材研究の基礎となる知識や理論の習得及び具体的な教材の検討を行う。 （40 杉村伸二/4回） 第2回を担当し、高等学校地歴科公民科が対象とする領域（学習内容）について論じる。また、第10回～12回を担当し、主として世界史に関わる教材研究の基礎となる知識や理論の習得及び具体的な教材の検討を行う。</p>	<p>オムニバス</p>

<p>教科内容研究と教材開発Ⅰ（数学科）</p>	<p>〈目標〉 自らの専門とする教科等の指導内容に関する専門的背景の理解を深め、それらを教科等の指導や教材研究、授業研究等へ反映することができる。</p> <p>〈概要〉 中学校または高等学校で実際に指導されている指導内容や教材を取り上げ、指導内容の専門的背景についての理解を深める。さらに、中学校または高等学校数学科の教科内容や教材と数学専門とのつながりを意識しながら教材研究や授業研究が行えるような教科指導力を養成する。 (オムニバス・一部共同方式/全15回) (43 岩元隆/15回) 「幾何学」を中心として、教材研究の基盤となる専門的な知識および専門性をふまえた教材研究の方法について指導する。 (45 原卓哉/15回) 「解析学」を中心として、教材研究の基盤となる専門的な知識および専門性をふまえた教材研究の方法について指導する。 (46 藤本光史/15回) 「コンピュータ」を中心として、教材研究の基盤となる専門的な知識および専門性をふまえた教材研究の方法について指導する。 (44 中田寿夫/15回) 「確率論・統計学」を中心として、教材研究の基盤となる専門的な知識および専門性をふまえた教材研究の方法について指導する。 (49 岡崎亮太/15回) 「代数学」を中心として、教材研究の基盤となる専門的な知識および専門性をふまえた教材研究の方法について指導する。 (48 岩田耕司/4回)</p> <p>取り上げた指導内容や教材の学習指導要領での位置づけと、専門性をふまえた教材研究および学習指導構想について指導する。 第1回の「オリエンテーション」や第2回から第3回の「教科内容および教材の分析」、および第15回の「教材開発についての発展的な研究」は六名でおこなう。</p>	<p>オムニバス・共同</p>
<p>教科内容研究と教材開発Ⅰ（理科）</p>	<p>〈目標〉 理科の指導内容に関する専門的背景の理解を深め、それらを教科等の指導や教材研究、授業研究等へ反映することができる。</p> <p>〈概要〉 中学校または高等学校で実際に指導されている指導内容や教材を取り上げ、指導内容の専門的背景についての理解を深める（身近な物理現象、身の回りの物質、電流とその利用、化学変化と原子・分子、運動とエネルギー、化学変化と理論、科学技術と人間、いろいろな生物とその共通点、大地の成り立ちと変化、生物の体のつくりと働き、気象とその変化、生命の連続性、地球と宇宙、自然と人間、運動の表し方、波、様々な力とその働き、熱、電気、力学的エネルギー、エネルギーとその利用、化学と物質、物質の構成粒子、物質と化学結合、物質質量と化学反応式、化学反応、生物の特徴、神経系と内分泌系による調節、遺伝子とその働き、植生と遷移、免疫、生態系とその保全、惑星としての地球、活動する地球、大気と海洋、地球の変遷、地球の環境など）。 (共同・一部オムニバス方式15回) (59 森藤義孝、52 坂本憲明、61 甲斐初美/共同11回、オムニバス2回) 教科教育の視点から、理科の教科としての特性や、高等学校の生徒の実態に応じた授業実践上の課題について考察するための指導を行う。 (物理は56 松崎昌之・57 三谷尚、化学は54 長澤五十六・58 宮崎義信・50 伊藤克治・62 小杉健太郎、生物は53 鈴木浩文・5 西野秀昭・55 福原達人・60 山崎聖司、地学は51 金光理/共同11回、オムニバス2回) 教科専門の視点から、各分野での教材開発や授業展開の工夫などの指導を行う。</p>	<p>オムニバス・共同</p>
<p>教科内容研究と教材開発Ⅰ（英語科）</p>	<p>〈目標〉 英語科の指導内容に関し、特に「読むこと」領域の学習指導要領における位置づけや、教材としての文学的文章・説明的文章の理解など、専門的背景の理解を深め、それらを英語科の指導や教材研究、授業研究等へ反映することができることを目標とする。</p> <p>〈概要〉 「読むこと」領域の学習のために、中学校または高等学校で実際に指導されている英語科の指導内容や教材を取り上げ、指導内容の教材研究を行うにあたっての教材自体に対する専門的背景について、理解を深め、自身の英語科教育における教材観を高めるための気づきを得る。 (一部共同方式/全15回) (25 井之上浩幸/7回) 学習指導要領における位置づけや学習指導案の作成等の実践的検討を担当する。 (63 江頭理江/15回) 文学的文章教材・説明的文章教材について担当する。</p>	<p>共同</p>

教科内容研究と教材開発Ⅰ（保健体育科）	<p>〈目標〉 自らの専門とする保健体育科の指導内容に関する専門的背景の理解を深め、それらを教科等の指導や教材研究、授業研究等へ反映することができる。</p> <p>〈概要〉 運動学関係の教科に関する専門的事項に焦点をあてて、高等学校で実際に指導されている指導内容や教材についての専門的背景についての理解を深めるとともに、高等学校保健体育科の教科内容や教材と保健体育専門とのつながりを意識しながら教材研究や授業研究が行えるような教科指導力を養成する。 （一部共同方式15回） （26 松崎治一/2回） 第1回および第15回を担当し、授業のオリエンテーションおよび授業づくりに関する指導の統括を行う。 （71 清水知恵/15回） 「ダンス」を中心とした専門的な知識・技能および専門性をふまえた教材研究・授業づくりの方法について指導する。 （72 檜崎教子/15回） 「柔道」を中心とした専門的な知識・技能および専門性をふまえた教材研究・授業づくりの方法について指導する。</p> <p>第1回のオリエンテーションは全員で行う。</p>	オムニバス・共同
教科内容研究と教材開発Ⅱ（国語科）	<p>〈目標〉 高等学校国語科の指導内容に関する専門的背景の理解を深め、それらを教科等の指導や教材研究、授業研究等へ反映することができる。</p> <p>〈概要〉 高等学校国語科に関する学問領域から1つの領域を選択し、その領域における中学校または高等学校で実際に指導されている指導内容や教材についての専門的背景についての理解を深める。特に、高等学校国語科における、いわゆる「古文」領域を主たる対象として、教材研究の基盤となる専門的な知識や研究方法について習得し、授業実践に結び付ける道筋を考察する。 （オムニバス・共同方式15回） （35 沼尻利通/10回） オリエンテーションおよびまとめを共同で担当するとともに、教材研究の基盤となる専門的な知識や研究の方法について（中古を中心に）。専門性をふまえた教材研究および学習指導構想について。 （29 菊池庸介/10回） オリエンテーションおよびまとめを共同で担当するとともに、教材研究の基盤となる専門的な知識や研究の方法について（近世を中心に）。専門性をふまえた教材研究および学習指導構想について。 （10 若木常佳/7回） オリエンテーションおよびまとめを共同で担当するとともに、対象領域の学習指導要領での位置づけと、専門性をふまえた教材研究および学習指導構想について。</p>	オムニバス・共同
教科内容研究と教材開発Ⅱ（社会科）	<p>〈目標〉 高等学校公民科の指導内容に関する専門的背景の理解を深め、それらを教科等の指導や教材研究、授業研究等へ反映することができる。</p> <p>〈概要〉 高等学校公民科新必修科目「公共」の教材の機能と役割を理解する。また、自らの実践知に基づいた授業分析と教材研究を通して、新科目公共や倫理、政治経済の教材開発を行うと共に単元を構想し実践する。 （オムニバス・共同方式15回） （21 芋生修一/7回） 第1回～2回、第11回～15回を担当し、前半は高等学校公民科必修「公共」の学習指導要領での位置づけや具体的な教材化及び指導方法について論じ、後半は、「公共」の単元構想及び学習指導案の作成について指導助言を行う。 （37 豊蔭啓司・41 谷本純一・39 小林知子/8回）（共同） 第3回～10回を担当し、主として新必修科目「公共」に関わる教材研究の基礎となる知識や理論の習得及び具体的な教材について論じる。また、先行する「公共」の実践的研究について論じる。</p>	オムニバス・共同

<p>教科内容研究と教材開発Ⅱ（数学科）</p>	<p>〈目標〉 自らの専門とする教科等の指導内容に関する専門的背景の理解を深め、それらを教科等の指導や教材研究、授業研究等へ反映することができる。</p> <p>〈概要〉 中学校または高等学校で実際に指導されている指導内容や教材を取り上げ、指導内容の専門的背景についての理解を深める。さらに、中学校または高等学校数学科の教科内容や教材と数学専門とのつながりを意識しながら教材研究や授業研究が行えるような教科指導力を養成する。 (オムニバス・一部共同方式15回) (43 岩元隆/15回) 「幾何学」を中心として、教材研究の基盤となる専門的な知識および専門性をふまえた教材研究の方法について指導する。 (45 原卓哉/15回) 「解析学」を中心として、教材研究の基盤となる専門的な知識および専門性をふまえた教材研究の方法について指導する。 (46 藤本光史/15回) 「コンピュータ」を中心として、教材研究の基盤となる専門的な知識および専門性をふまえた教材研究の方法について指導する。 (44 中田寿夫/15回) 「確率論・統計学」を中心として、教材研究の基盤となる専門的な知識および専門性をふまえた教材研究の方法について指導する。 (49 岡崎亮太/15回) 「代数学」を中心として、教材研究の基盤となる専門的な知識および専門性をふまえた教材研究の方法について指導する。 (14 清水紀宏/4回)</p> <p>取り上げた指導内容や教材の学習指導要領での位置づけと、専門性をふまえた教材研究および学習指導構想について指導する。 第1回の「オリエンテーション」や第2回から第3回の「教科内容および教材の分析」、および第15回の「教材開発についての発展的な研究」は六名でおこなう。</p>	<p>オムニバス・共同</p>
<p>教科内容研究と教材開発Ⅱ（理科）</p>	<p>〈目標〉 理科の指導内容に関する専門的背景の理解を深め、それらを教科等の指導や教材研究、授業研究等へ反映することができる。</p> <p>〈概要〉 理科に関する学問領域から1つの領域を選択し、「教科内容研究と教材開発Ⅰ」とは異なる単元等を選択し、その領域における中学校または高等学校で実際に指導されている指導内容や教材についての専門的背景についての理解を深める（身近な物理現象、身の回りの物質、電流とその利用、化学変化と原子・分子、運動とエネルギー、化学変化と理論、科学技術と人間、いろいろな生物とその共通点、大地の成り立ちと変化、生物の体のつくりと働き、気象とその変化、生命の連続性、地球と宇宙、自然と人間、運動の表し方、波、様々な力とその働き、熱、電気、力学的エネルギー、エネルギーとその利用、化学と物質、物質の構成粒子、物質と化学結合、物質と化学反応式、化学反応、生物の特徴、神経系と内分泌系による調節、遺伝子とその働き、植生と遷移、免疫、生態系とその保全、惑星としての地球、活動する地球、大気と海洋、地球の変遷、地球の環境など）。 (共同・一部オムニバス方式15回) (59 森藤義孝、52 坂本憲明、61 甲斐初美/共同11回、オムニバス2回) 教科教育の視点から、理科の教科としての特性や、高等学校の生徒の実態に応じた授業実践上の課題について考察するための指導を行う。 (物理は56 松崎昌之・57 三谷尚、化学は54 長澤五十六・58 宮崎義信・50 伊藤克治・62 小杉健太郎、生物は53 鈴木浩文・5 西野秀昭・55 福原達人・60 山崎聖司、地学は51 金光理/共同11回、オムニバス2回) 教科専門の視点から、各分野での教材開発や授業展開の工夫などの指導を行う。</p>	<p>オムニバス・共同</p>
<p>教科内容研究と教材開発Ⅱ（英語科）</p>	<p>〈目標〉 英語科の指導内容に関し、特に「言語・コミュニケーション」領域の学習指導要領における位置づけや、「英語表現」に関わる教材の基礎的な知識や理解を深め、それらを教科等の指導や教材研究、授業研究等へ反映することができることを目標とする。</p> <p>〈概要〉 「言語（音声学・音韻論）・コミュニケーション」のうち、いずれかの学問領域を選択し、その領域において中学校または高等学校で実際に指導されている指導内容や教材についての専門的背景についての理解を深め、学習指導要領をふまえた授業実践における、具体的な教材の検討から、自身の教材観を再構成する。 (一部共同方式15回) (25 井之上浩幸/7回) 学習指導要領における位置づけや学習指導案の作成等の実践的検討を担当する。 (64 中島亨/15回) 音声学・音韻論に関わる教材について担当する。 (66 吉武正樹/15回) コミュニケーション学に関わる教材について担当する。</p>	<p>共同</p>

<p>教科内容研究と教材開発Ⅱ（保健体育科）</p>	<p>〈目標〉 自らの専門とする保健体育科の指導内容に関する専門的背景の理解を深め、それらを教科等の指導や教材研究、授業研究等へ反映することができる。</p> <p>〈概要〉 健康教育学関係の教科に関する専門的事項に焦点をあてて、高等学校で実際に指導されている指導内容や教材についての専門的背景についての理解を深めるとともに、高等学校保健体育科の教科内容や教材と保健体育専門とのつながりを意識しながら教材研究や授業研究が行えるような教科指導力を養成する。 (オムニバス・共同方式15回) (26 松崎治一 /2回) 第1回および第15回を担当し、授業のオリエンテーションおよび授業づくりに関する指導の統括を行う。 (68 市丸直人/15回) 「球技」を中心とした専門的な知識・技能および専門性をふまえた教材研究・授業づくりの方法について指導する。 (69 片平誠人/15回) 「陸上競技」を中心とした専門的な知識・技能および専門性をふまえた教材研究・授業づくりの方法について指導する。 第1回のオリエンテーションは全員で行う。</p>	<p>共同</p>
<p>教科内容研究と教材開発Ⅲ（国語科）</p>	<p>〈目標〉 自らの専門とする教科等の指導内容に関する専門的背景の理解を深め、それらを教科等の指導や教材研究、授業研究等へ反映することができる。</p> <p>〈概要〉 専門教科等に関する学問領域から1つの領域を選択し、その領域における中学校または高等学校で実際に指導されている指導内容や教材についての専門的背景についての理解を深める。特に、高等学校国語科における、いわゆる「漢文」領域を主たる対象として、教材研究の基盤となる専門的な知識や研究方法について習得し、授業実践に結び付ける道筋を考察する。 (オムニバス・共同方式15回) (31 鶴成久章/8回) オリエンテーションおよびまとめを共同で担当するとともに、教材研究の基盤となる専門的な知識や研究の方法について（漢詩および思想を中心に）。 (34 竹元規人/8回) オリエンテーションおよびまとめを共同で担当するとともに、教材研究の基盤となる専門的な知識や研究の方法について（史伝を中心に）。専門性をふまえた教材研究および学習指導構想について。 (1 青山之典/6回) オリエンテーションおよびまとめを共同で担当するとともに、対象領域の学習指導要領での位置づけと、専門性をふまえた教材研究および学習指導構想について。</p>	<p>オムニバス・共同</p>
<p>教科内容研究と教材開発Ⅲ（社会科）</p>	<p>〈目標〉 高等学校地理歴史科の指導内容に関する専門的背景の理解を深め、それらを教科等の指導や教材研究、授業研究等へ反映することができる。</p> <p>〈概要〉 高等学校地理歴史科の中で選択科目「地理探究」「日本史探究」「世界史探究」における教材の機能と役割を典型的に理解するとともに、自らの経験を踏まえた授業分析と教材研究を通して、複数の教材を活用した社会科授業（単元）を構想し実践する。 (オムニバス方式15回) (11 坂井清隆/2回) 第1回及15回を担当し、第1回で学修の見通しをもたせる。第15回では、選択科目の具体的な教材に即した学習指導構想（単元レベル）及び模擬授業等を通じた相互の検討・交流及び修正案について指導助言を行う。 (36 石丸哲史/6回) 第3回～8回を担当し、主として「地理探究」に関わる教材研究の基礎となる知識や理論の習得及び具体的な教材の検討を行う。 (38 小川亜弥子/4回) 第2回および第9回～11回を担当し、第2回では、選択科目「地理探究」「日本史探究」「世界史探究」の学習指導要領での位置づけと具体的な内容について論じる。後半では、主として「日本史探究」に関わる教材研究の基礎となる知識や理論の習得及び具体的な教材の検討を行う。 (40 杉村伸二/3回) 第12回～14回を担当し、主として「世界史探究」に関わる教材研究の基礎となる知識や理論の習得及び具体的な教材の検討を行う。</p>	<p>オムニバス</p>

<p>教科内容研究と教材開発Ⅲ（数学科）</p>	<p>〈目標〉 自らの専門とする教科等の指導内容に関する専門的背景の理解を深め、それらを教科等の指導や教材研究、授業研究等へ反映することができる。</p> <p>〈概要〉 中学校または高等学校で実際に指導されている指導内容や教材を取り上げ、指導内容の専門的背景についての理解を深める。この授業では、特に代数学または解析学に関連する教科内容や教材に焦点を当て、その専門的背景を研究する。 (オムニバス・共同方式15回) (45 原卓哉/15回) 「解析学」を中心として、教材研究の基盤となる専門的な知識および専門性をふまえた教材研究の方法について指導する。 (49 岡崎亮太/15回) 「代数学」を中心として、教材研究の基盤となる専門的な知識および専門性をふまえた教材研究の方法について指導する。 (47 今井一仁/4回) 取り上げた指導内容や教材の学習指導要領での位置づけと、専門性をふまえた教材研究および学習指導構想について指導する。 第1回の「オリエンテーション」や第2回から第3回の「教科内容および教材の分析」、および第15回の「教材開発についての発展的な研究」は三名でおこなう。</p>	<p>オムニバス・共同</p>
<p>教科内容研究と教材開発Ⅲ（理科）</p>	<p>〈目標〉 理科の指導内容に関する専門的背景の理解を深め、それらを教科等の指導や教材研究、授業研究等へ反映することができる。</p> <p>〈概要〉 理科に関する学問領域から1つの領域を選択し、「教科内容研究と教材開発Ⅰ・Ⅱ」とは異なる単元等を選択し、その領域における中学校または高等学校で実際に指導されている指導内容や教材についての専門的背景についての理解を深める（身近な物理現象、身の回りの物質、電流とその利用、化学変化と原子・分子、運動とエネルギー、化学変化と理論、科学技術と人間、いろいろな生物とその共通点、大地の成り立ちと変化、生物の体のつくりと働き、気象とその変化、生命の連続性、地球と宇宙、自然と人間、運動の表し方、波、様々な力とその働き、熱、電気、力学的エネルギー、エネルギーとその利用、化学と物質、物質の構成粒子、物質と化学結合、物質と化学反応式、化学反応、生物の特徴、神経系と内分泌系による調節、遺伝子とその働き、植生と遷移、免疫、生態系とその保全、惑星としての地球、活動する地球、大気と海洋、地球の変遷、地球の環境など）。 (共同・オムニバス方式15回) (59 森藤義孝、52 坂本憲明、61 甲斐初美/共同11回、オムニバス2回) 教科教育の視点から、理科の教科としての特性や、高等学校の生徒の実態に応じた授業実践上の課題について考察するための指導を行う。 (物理は56 松崎昌之・57 三谷尚、化学は54 長澤五十六・58 宮崎義信・50 伊藤克治・62 小杉健太郎、生物は53 鈴木浩文・5 西野秀昭・55 福原達人・60 山崎聖司、地学は51 金光理/共同11回、オムニバス2回) 教科専門の視点から、各分野での教材開発や授業展開の工夫などの指導を行う。</p>	<p>オムニバス・共同</p>
<p>教科内容研究と教材開発Ⅲ（英語科）</p>	<p>〈目標〉 英語科の指導内容に関し、特に「読むこと」領域の学習指導要領における位置づけや、教材としての文学的文章・説明的文章の理解など、専門的背景の理解を深め、それらを自身や同僚の英語科の指導や教材研究、授業研究等へ反映することができることを目標とする。</p> <p>〈概要〉 「読むこと」領域の学習のために、専門教科等に関する学問領域から1つの領域を選択し、その領域における中学校または高等学校で実際に指導されている指導内容や教材についての専門的背景についての理解を深め、自身の教材観を再構成し、同僚などに有益な資料を提供することなどを想定し、授業構想を更に発展させる。英語科教育における教材観を高めるための気づきを得る。 (一部共同方式15回) (25 井之上浩幸/7回) 学習指導要領の内容や学習指導案の作成等の実践的検討を担当する。 (63 江頭理江/15回) 説明的文章教材・文学的文章教材について担当する。</p>	<p>共同</p>

<p>教科内容研究と教材開発Ⅲ（保健体育科）</p>	<p>〈目標〉 自らの専門とする保健体育科の指導内容に関する専門的背景の理解を深め、それらを教科等の指導や教材研究、授業研究等へ反映することができる。</p> <p>〈概要〉 体育理論・体育学関係の教科に関する専門的事項に焦点をあてて、高等学校で実際に指導されている指導内容や教材についての専門的背景についての理解を深めるとともに、高等学校保健体育科の教科内容や教材と保健体育専門とのつながりを意識しながら教材研究や授業研究が行えるような教科指導力を養成する。</p> <p>（共同方式15回） （26 松崎治一/2回） 第1回および第15回を担当し、授業のオリエンテーションおよび授業づくりに関する指導の統括を行う。</p> <p>（70 榎原浩晃/15回） 「体育理論」を中心とした専門的な知識・技能および専門性をふまえた教材研究・授業づくりの方法について指導する。</p> <p>第1回のオリエンテーションは全員で行う。</p>	<p>共同</p>
<p>教科内容研究と教材開発Ⅳ（国語科）</p>	<p>〈目標〉 高等学校国語科の指導内容に関する専門的背景の理解を深め、それらを教科等の指導や教材研究、授業研究等へ反映することができる。</p> <p>〈概要〉 高等学校国語科に関する学問領域から1つの領域を選択し、その領域における中学校または高等学校で実際に指導されている指導内容や教材についての専門的背景についての理解を深める。特に、高等学校国語科における、文法および言語領域を主たる対象として、教材研究の基盤となる専門的な知識や研究方法について習得し、授業実践に結び付ける道筋を考察する。</p> <p>（オムニバス・共同方式15回） （27 勝又隆/8回） オリエンテーションおよびまとめを共同で担当するとともに、教材研究の基盤となる専門的な知識や研究の方法について（古典文法を中心に）。専門性をふまえた教材研究および学習指導構想について。</p> <p>（33 荻野千砂子/8回） オリエンテーションおよびまとめを共同で担当するとともに、教材研究の基盤となる専門的な知識や研究の方法について（言語を中心に）。専門性をふまえた教材研究および学習指導構想について。</p> <p>（1 青山之典/9回） オリエンテーションおよびまとめを共同で担当するとともに、対象領域の学習指導要領での位置づけと、表現教材の検討、専門性をふまえた教材研究および学習指導構想について。</p>	<p>オムニバス・共同</p>
<p>教科内容研究と教材開発Ⅳ（社会科）</p>	<p>〈目標〉 高等学校公民科の指導内容に関する専門的背景の理解を深め、それらを教科等の指導や教材研究、授業研究等へ反映することができる。</p> <p>〈概要〉 高等学校地理歴史科の中で選択科目「倫理」「政治・経済」における教材の機能と役割を典型的に理解するとともに、自らの経験を踏まえた授業分析と教材研究を通して、複数の教材を活用した社会科授業（単元）を構想し実践する。</p> <p>（オムニバス・共同方式15回） （21 芋生修一/6回） 第1回～2回を担当し、前半は高等学校公民科選択科目「倫理」「政治・経済」の学習指導要領での位置づけや具体的な教材化及び指導方法について論じ、第12回～15回を主担当し、選択科目の単元構想及び学習指導案の作成について指導助言を行う。</p> <p>（21 芋生修一/7回） 第3回～5回を担当し、主として選択科目「倫理」に関わる教材研究の基礎となる知識や理論の習得及び具体的な教材について論じる。また、第12回～15回を副担当し、選択科目の単元構想及び学習指導案の作成について指導助言を行う。</p> <p>（13 小田泰司・39 小林知子/7回） 第6回～8回を担当し、主として選択科目「政治・経済」の政治に関わる教材研究の基礎となる知識や理論の習得及び具体的な教材について論じる。また、第12回～15回を副担当し、選択科目の単元構想及び学習指導案の作成について指導助言を行う。</p> <p>（42 久本貴志・41 谷本純一/7回） 第9回～11回を担当し、主として選択科目「政治・経済」の経済に関わる教材研究の基礎となる知識や理論の習得及び具体的な教材について論じる。また、第12回～15回を副担当し、選択科目の単元構想及び学習指導案の作成について指導助言を行う。</p>	<p>オムニバス・共同</p>

<p>教科内容研究と教材開発Ⅳ（数学科）</p>	<p>〈目標〉 自らの専門とする教科等の指導内容に関する専門的背景の理解を深め、それらを教科等の指導や教材研究、授業研究等へ反映することができる。</p> <p>〈概要〉 中学校または高等学校で実際に指導されている指導内容や教材を取り上げ、指導内容の専門的背景についての理解を深める。この授業では、幾何学、確率論・統計学、またはコンピュータに関連する教科内容や教材に焦点を当て、その専門的背景を研究する。 (オムニバス・共同方式15回) (43 岩元隆/15回) 「幾何学」を中心として、教材研究の基盤となる専門的な知識および専門性をふまえた教材研究の方法について指導する。 (46 藤本光史/15回) 「コンピュータ」を中心として、教材研究の基盤となる専門的な知識および専門性をふまえた教材研究の方法について指導する。 (44 中田寿夫/15回) 「確率論・統計学」を中心として、教材研究の基盤となる専門的な知識および専門性をふまえた教材研究の方法について指導する。 (47 今井一仁/4回)</p> <p>取り上げた指導内容や教材の学習指導要領での位置づけと、専門性をふまえた教材研究および学習指導構想について指導する。</p> <p>第1回の「オリエンテーション」や第2回から第3回の「教科内容および教材の分析」、および第15回の「教材開発についての発展的な研究」は四名でおこなう。</p>	<p>オムニバス・共同</p>
<p>教科内容研究と教材開発Ⅳ（理科）</p>	<p>〈目標〉 理科の指導内容に関する専門的背景の理解を深め、それらを教科等の指導や教材研究、授業研究等へ反映することができる。</p> <p>〈概要〉 理科に関する学問領域から1つの領域を選択し、「教科内容研究と教材開発Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ」とは異なる単元等を選択し、その領域における中学校または高等学校で実際に指導されている指導内容や教材についての専門的背景についての理解を深める（身近な物理現象、身の回りの物質、電流とその利用、化学変化と原子・分子、運動とエネルギー、化学変化と理論、科学技術と人間、いろいろな生物とその共通点、大地の成り立ちと変化、生物の体のつくりと働き、気象とその変化、生命の連続性、地球と宇宙、自然と人間、運動の表し方、波、様々な力とその働き、熱、電気、力学的エネルギー、エネルギーとその利用、化学と物質、物質の構成粒子、物質と化学結合、物質と化学反応式、化学反応、生物の特徴、神経系と内分泌系による調節、遺伝子とその働き、植生と遷移、免疫、生態系とその保全、惑星としての地球、活動する地球、大気と海洋、地球の変遷、地球の環境など）。</p> <p>(共同・オムニバス方式15回) (59 森藤義孝、52 坂本憲明、61 甲斐初美/共同11回、オムニバス2回)</p> <p>教科教育の視点から、理科の教科としての特性や、高等学校の生徒の実態に応じた授業実践上の課題について考察するための指導を行う。 (物理は56 松崎昌之・57 三谷尚、化学は54 長澤五十六・58 宮崎義信・50 伊藤克治・62 小杉健太郎、生物は53 鈴木浩文・5 西野秀昭・55 福原達人・60 山崎聖司、地学は51 金光理/共同11回、オムニバス2回)</p> <p>教科専門の視点から、各分野での教材開発や授業展開の工夫などの指導を行う。</p>	<p>オムニバス・共同</p>
<p>教科内容研究と教材開発Ⅳ（英語科）</p>	<p>〈目標〉 英語科の指導内容に関し、特に「言語・コミュニケーション」領域の学習指導要領における位置づけや、「英語表現」に関わる教材の発展的な知識や理解を深め、それらを自身や同僚の教科等の指導や教材研究、授業研究等へ反映することができることを目標とする。</p> <p>〈概要〉 「言語（音声学・音韻論）・コミュニケーション」のうち、「教科内容研究と教材開発Ⅱ」で選択していない学問領域を選択し、その領域において中学校または高等学校で実際に指導されている指導内容や教材についての専門的背景についての理解を深め、学習指導要領をふまえた授業実践における、具体的な教材の検討から、自身の教材観を再構成し、同僚などに有益な資料を提供することなどを想定し、教材観を更に発展させる。 (一部共同方式15回) (25 井之上浩幸/7回)</p> <p>学習指導要領の内容や学習指導案の作成等の実践的検討を担当する。 (64 中島亨/15回)</p> <p>音声学・音韻論に関わる教材について担当する。 (66 吉武正樹/15回)</p> <p>コミュニケーション学に関わる教材について担当する。</p>	<p>共同</p>

<p>教科内容研究と教材開発Ⅳ（保健体育科）</p>	<p>〈目標〉 自らの専門とする保健体育科の指導内容に関する専門的背景の理解を深め、それらを教科等の指導や教材研究、授業研究等へ反映することができる。</p> <p>〈概要〉 体育実技関係の発展的内容及び武道に関する専門的事項に焦点をあてて、高等学校で実際に指導されている指導内容や教材についての専門的背景についての理解を深めるとともに、高等学校保健体育科の教科内容や教材と保健体育専門とのつながりを意識しながら教材研究や授業研究が行えるような教科指導力を養成する。</p> <p>（「教科内容研究と教材開発」Ⅰ～Ⅳを通して、同一領域は一回のみ選択履修すること。） （共同方式15回） （26 松崎治一/2回） 第1回および第15回を担当し、授業のオリエンテーションおよび授業づくりに関する指導の統括を行う。 （15 本多壮太郎/15回） 「剣道」を中心とした専門的な知識・技能および専門性をふまえた教材研究・授業づくりの方法について指導する。 （72 檜崎教子/15回） 「柔道」を中心とした専門的な知識・技能および専門性をふまえた教材研究・授業づくりの方法について指導する。</p> <p>第1回のオリエンテーションは全員で行う。</p>	<p>オムニバス・共同</p>
<p>チーム学校と学校組織マネジメント</p>	<p>〈目標〉 スクールリーダーシップ開発コースは、今後のスクールリーダーとなる人材育成を目的としている。本講義では、今後の教育を展望した学校組織の変容を踏まえて、ミドルレベルを担う人材を育成することを目的とする。主任・主幹職になるための意識、マネジメント・リーダーシップの理論・実践に関する知識を獲得することで、今後の自らのキャリアを拡大する機会となることをめざす。</p> <p>〈概要〉 チーム学校の在り方と学校組織マネジメントやミドルリーダーの役割・ミドルマネジメント・リーダーシップ等に関する知識を獲得すると共に、学校運営における具体的な実務を学ぶ。</p> <p>（オムニバス方式15回） （17 森保之/3回） 講義内容におけるチーム学校、学校組織マネジメントに関する実践的指導能力の育成、院生の議論のファシリテーターとして支援する。 （16 田淵聡/3回） 講義内容におけるチーム学校、地域連携に関する実践的指導能力の育成、院生の議論のファシリテーターとして支援する。 （24 峯田明子/2回） 講義内容におけるチーム学校、カリキュラム開発に関する実践的指導能力の育成、院生の議論のファシリテーターとして支援する。 （2 大竹晋吾/3回） 講義内容におけるチーム学校、人材育成、ミドルリーダー育成に関する実践的指導能力の育成、院生の議論のファシリテーターとして支援する。 （19 脇田哲郎/2回） 講義内容におけるチーム学校、カリキュラム編成（特別活動・総合的な学習の時間）のマネジメントに関する実践的指導能力の育成、院生の議論のファシリテーターとして支援する。 （6 西山久子/2回） 講義内容におけるチーム学校、関係専門職との連携構築に関する実践的指導能力の育成、院生の議論のファシリテーターとして支援する。</p>	<p>オムニバス</p>
<p>教職員の人材育成マネジメント</p>	<p>〈目標〉 今後に期待される学校組織の人材育成の観点と、一方で注目される教員の勤務状況を改善する手法（メンタリング・コーチング）の知識・技術を理論的・実践的に学習することを目的とする。</p> <p>〈概要〉 先進的な事例研究・分析を基盤に、多様な教職員のキャリアステージに沿った、学校組織の校内研修体制を構築できる能力を獲得する。そのうえで、実際の教員の指導に係わる際のメンタリング・コーチングの技術を獲得し、そのうえで各学校（勤務校・実習校）における校内研修を具体的に設計しマニュアルと作成することを目的とする。</p>	
<p>学校間連携・地域連携マネジメント</p>	<p>〈目標〉 家庭・地域の実態と課題に応じて学校間連携及び地域連携マネジメントの諸条件とストラテジーを、実践的事例の分析・検討を行いながら析出していく。</p> <p>〈概要〉 先進校の実践を分析し、連携マネジメントの諸条件やストラテジーを析出するための、ケース分析を行う。異なる学校段階間での連携や地域連携のあり方について検討を行う。課題やテーマに応じて連携校や連携機関へのインタビューや観察を中心とした実地調査を行う。</p>	

	行動連携のための教育臨床心理学	<p>〈目標〉 臨床心理学の主要理論や概念、そしてそれらにもとづく各種臨床心理学的手法の概略を理解し、学校に配置されるスクールカウンセラーや、外部資源としての各種相談室あるいは相談機関などの専門家と有効に情報・行動連携ができるようになることを目標とする。また、学校適応援助における教育相談から臨床心理の専門領域に至る支援サービスを、ニーズに沿って適切に選択する方法を理解する。</p> <p>〈概要〉 まず、学校教育において臨床心理学の理論や視点を活用する意義を、わが国での活用の歴史の変遷を踏まえて学ぶ。その後、おもに事例を用いて、各種臨床心理学的手法の主要概念を理解し、また各種臨床心理学的手法の概略を、試行カウンセリングによって学修する。</p>	
	予防・開発的教育相談	<p>〈目標〉 子どもの学校適応における予防・開発的教育相談の意義を理解し、予防的心理教育プログラムの理論や手法を学んだ上で、自らがそれらを実践できるとともに、実際に学校に導入できるようになることを目標とする。学校適応援助に関わる領域から、目的に合ったプログラムを選択できるようにする。</p> <p>〈概要〉 現在日本で実施されている各種予防的心理教育プログラムの特徴と内容を学習し、代表的な予防的心理教育プログラムの実施方法と導入過程をワークショップによって身につける。そして、それをもとに、学校全体での組織的な予防・開発的支援を実践できるようにする。</p>	
	非行臨床と司法の基礎	<p>〈目標〉 犯罪心理学の理論を学び学校内の生徒指導に臨床的な知見を活用できる、また、児童相談所、少年鑑別所、警察等の実態と連携手法を学ぶ。非行臨床の支援を必要とする児童生徒への学校適応援助の方法を理解する。</p> <p>〈概要〉 心理、社会、経済、文化要因や生物学的な要因までも含む多面的現象である非行を科学的に理解し、我が国における非行の現状を把握するとともに非行を理解するための理論的枠組みを学ぶ、そのうえで学校での非行に関連する援助活動を実践でき、さらに、児童相談所、少年鑑別所、警察等との円滑な連携を行えるように法制度についても学ぶ。</p>	隔年
	学習指導支援の理論と実践	<p>〈目標〉 基礎学力の定着と向上をめざして、学校適応に課題を抱える児童生徒に有効な補充学習及び発展的学習が実施され、またそのための指導形態として少人数・習熟度別指導等が工夫されている。このような指導法を真に生かすため、学習心理学の基礎的概念を学び、理解を深める。</p> <p>〈概要〉 教授・学習に関するキーワードの定義や意味をまとめ、それに関する学校での学習指導場面や学校生活場面を取り上げて生徒指導の機能（自己決定、自己存在感、望ましい人間関係）を生かした指導とするための考察を行い、最後に学校適応に課題を抱える児童生徒を対象とした事例を含む事例検討を行う。</p>	
	発達援助の理論と実践	<p>〈目標〉 定型発達児の発達段階の特徴について、身体、心理、認知、社会性等の各発達領域の確実な知識を獲得し、それぞれについて説明でき、発達障害に見られる発達の偏り等を早期発見できるようにする。そして、各発達段階における発達や成長を促進する環境の整備を行える知識を得る。特に、学習に関連が深い認知発達については、最新の心理検査の理解と実施ができるようにする。</p> <p>〈概要〉 身体、心理、認知、社会性等の発達過程を学習する。また、環境的要因の観点からは、発達を促進する学習環境の設定について、個別施行の検査の習得、実施、総合評価、提言を事例の検討およびシミュレーションによって学習する。</p>	

<p>特別支援教育における資源の活用と連携</p>	<p>〈目標〉 教育・医療・福祉関係諸機関や特別支援学校との連絡・調整を行うために、各機関の特徴や役割や組織の活動に関する知識と体験的に情報の獲得の手法を学ぶ。そして、地域の学校間ネットワークと学校外資源との連携を形成・強化できるようにする。 〈概要〉 教育・医療・福祉関係諸機関や関係諸学校の特徴および連携方法を、訪問・観察や事例検討によって学ぶ。また、学校外資源を訪問して連携の実態および連携推進の手順や留意点を知り、連携に役立つ資源マップを作成する。 (共同方式15回) (7 納富恵子/15回) 連携調整に必要な知識や技能について担当する。 (20 舩元俊文/15回) 実践面について担当する。</p>	<p>共同</p>
<p>学級における特別支援教育のケース研究</p>	<p>〈目標〉 学習障害、注意欠陥多動性障害、高機能自閉症等、通常学級に在籍する特別な教育的ニーズのある児童生徒の実態把握と特性に基づいた支援法について理解する。また、個別的教育支援計画や指導計画について事例をもとに理解する。 〈概要〉 包括的な事例理解の分析視点について事例検討から学ぶ。また、特別な教育的支援が必要な児童生徒の個別の指導計画作成を実際の事例検討によって学ぶ。 (7 納富恵子/15回) 事例研究に必要な知識や技能について担当する。 (20 舩元俊文/15回) 実践面について担当する。</p>	<p>共同</p>
<p>子供のキャリア発達支援</p>	<p>〈目標〉 小学校～高等学校および特別支援学校における実効性のあるキャリア教育を展開するために、キャリア発達の理論を学び、キャリア教育の実践力を高めるとともに、組織的な取組を推進することができるようになることを目標とする。 〈概要〉 まず進路学習のこれまでの歴史や、キャリア発達理論の概略、およびわが国のキャリア教育の特徴を学ぶ。次に、学級活動(3)「キャリア形成と自己実現」の授業づくりを通して、各発達段階に必要な今後のキャリア教育の取組を検討する。若年者の就労に関わる諸問題は、諸外国の実態と取組の動向も参考にし、わが国における有効な方策等を考察する。特別支援教育におけるキャリア教育の特徴についても理解する。</p>	
<p>教育的ニーズの把握と評価</p>	<p>〈目標〉 学校教育では、各人に備った個性や才能を発見・認識させ、これらを将来のキャリアおよび職業選択なども見据えつつ、各人のニーズに応じて伸ばしていくことが求められている。特別な教育的ニーズを含むさまざまなニーズの的確な把握と評価および記述を行うことができるとともに、そのための学校内の取組をシステム化できるようにする。 〈概要〉 教育的ニーズという基本的な視点を理解させ、教育の専門職としての自身・同僚・他の専門職がアセスメントした内容を指導に生かす方法を身に付けさせる。教育的ニーズの把握と支援計画立案、それに基づく教育実践の評価と目標や手立ての改善といったプロセスを概説し、事例研究とディスカッションにより学校現場の改善策を検討する。各プログラム履修者には専門領域のニーズの把握と評価等に関わる改善策の提案を求める。</p>	
<p>心理教育的援助サービスシステム化の理論と実践A</p>	<p>〈目標〉 教育相談コーディネーター等、全ての児童生徒の学校適応をスクールワイドで推進する立場に立ち、学校適応に関する基本概念を、子どもの教育に関するニーズの視点から理解する。子どもの学校適応における心理教育的援助サービスの区分と内容を把握した上で、特別な教育的ニーズのある児童生徒への支援と全ての子どもの成長に資する取組を実際に提供するための、システム構築ができるようになることを目標とする。 〈概要〉 教育相談コーディネーター等の立場で児童生徒の学校適応支援体制を構築することを想定し、既修得の諸概念を、子どもの学校適応促進の観点から三段階の適応状態に分けて整理し直す。学校での従来の取組みの成果と課題を、心理教育的援助サービス提供の現状と今後の改善点として、グループ討議等で検討する。そして、それにもとづき、全ての児童生徒を対象とした、校内の全教職員が利用できる包括的な学校適応支援システム構築の方法をシミュレートする。</p>	

	心理教育的援助サービスシステム化の理論と実践B	<p>〈目標〉 特別支援教育コーディネーター等の、特別な教育的ニーズのある児童生徒への支援を全校で推進する立場に立ち、学校適応に関する基本概念を、子どもの教育に関するニーズの視点から理解する。心理教育的援助サービスの区分と内容を把握し、全ての子どもの適応状態を概観する。個別的教育支援計画・指導計画の必要な子どもを見出し、合理的配慮を含めた適切な支援を提案するなど、具体的な援助を実際に提供するためのシステム構築ができるようになることを目標とする。</p> <p>〈概要〉 特別支援教育コーディネーター等の立場で特別支援教育体制を構築することを想定し、既修得の諸概念を、子どもの学校適応促進の観点から三段階の適応状態に分けて整理し直す。特別な教育的ニーズのある子どもに焦点をあて、学校での従来の取り組みの成果と課題を、心理教育的援助サービス提供の現状と今後の改善点として、グループ討議等で検討する。そして、それにもとづき、校内の全員が利用できる特別支援教育のシステムの構築の方法をシミュレートする。</p>	
	障害の理論と実践	<p>〈目標〉 特別支援学級及び通級による指導の対象となる児童生徒が有する障害について、その心理・生理・病理に関する知識を身につけるとともに、これら児童生徒を指導するために必要な知識を得る。</p> <p>〈概要〉 障害のある児童生徒の障害特性について理解を深めるための講義と演習を行う。視覚障害・聴覚障害・知的障害・肢体不自由・病弱・言語障害・発達障害の特性について講義を通して学ぶ。 (オムニバス・共同方式15回) オムニバス方式15回) (7 納富恵子/3回) オリエンテーションおよび発達障害児の心理・生理・病理と指導法 (80 韓星民/2回) 視覚障害児の心理・生理・病理と指導法 (74 相澤宏充/2回) 聴覚障害児の心理・生理・病理と指導法教育 (79 藤金倫徳/2回) 知的障害児の心理・生理・病理と指導法教育 (76 大平壇/2回) 肢体不自由児の心理・生理・病理と指導法 (81 深澤美華恵/2回) 病弱児の心理・生理・病理と指導法、 (77 見上昌陸/2回) 言語障害児の心理・生理・病理と指導法 (20 舩元俊文/2回) 主担当として全体を統括する。</p>	オムニバス・共同
	学校の危機管理と教育法規	<p>〈目標〉 学校組織の管理運営において、組織運営におけるマネジメントサイクルに即した危機管理体制の組織化を担う人材を育成する。</p> <p>〈概要〉 学校の危機管理に対応した組織体制、リスクマネジメントの対応能力、メンタルヘルス対応、各場面对応を想定したケース学習等をふまえて実践的能力の獲得を目指す。</p>	
	学校評価と学校改善	<p>〈目標〉 学校評価の現状と課題を明らかにしたうえで、学校改善に直結する学校評価のあり方、ストラテジー、システム化についての企画立案能力を高め、学校や地域の学校評価指導者となる人材を育成する。</p> <p>〈概要〉 先進校・教育委員会の取り組みを通して、学校評価についての基本的な理解と実践的課題に関する認識を深める。また学校評価や学校改善に対する効果的なシステム作りを先進的事例から検証する。そのうえで勤務校の学校評価システムを分析・評価し、具体的な評価システムや改善プランを企画立案する。</p>	
	学校組織開発とデータ分析	<p>〈目標〉 学校組織の改善のために重要な手法であるデータ分析の手法について、学術的な理解を図ることを目的とします。その上で、実際の勤務校（実習校）の学校改善課題に基づき、学校組織調査を実施しながら、調査スキルを獲得することを目的とする。</p> <p>〈概要〉 多面的・多角的な調査の目的、手法、評価についての理論的理解と調査スキルを獲得する。その後、各自が習得した調査技法を用いて、学校（勤務校）の実地調査を行い、データに基づいた評価結果のフィードバックを行い、学校改善を推進する。</p>	
	地域教育資源の開発とワークショップ	<p>〈目標〉 ・ゲストティーチャーや学校支援ボランティア等の人的資源、地域の教育関連施設等の物的資源についての理解を深める。 ・地域教育資源の有効な活用方策や運用の仕方を分析的・開発的な視点から提案することができる。</p> <p>〈概要〉 ・在籍校でのフィールドワークの中で、学習支援ボランティアやゲストティーチャーの活用方法の観察やインタビューを行い、実践的な課題を見だし、改善策を提案する。 ・テーマに即して地域教育資源の開発フィールドワークを行うとともに、教育資源のマップを作成し、地域教育力の総合化と活用方法のシステム化を図る。</p>	

課題演習	教育実践力開発コース	課題演習 I-1	<p>〈目標〉 現代の教育課題を踏まえて課題を見出し、研究構想を立てることができる。</p> <p>〈概要〉 継続的に、複数の指導教員（研究者教員・実務家教員）によるゼミ形式の授業（個別指導とグループ・ディスカッション）により、教職キャリア発達に向けての継続的なメンタリング&コーチングを行うとともに、教育実践力形成に関わる個人及びグループの研究テーマを設定し、研究者教員および実務家教員の指導により、授業実践力と学級経営力、特別活動の指導力等の開発を行う。また、1年目の学習計画にそって個人研究ポートフォリオを作成し、教師としての実践的指導力のモデルを確立させる。</p>	共同
		課題演習 I-2	<p>〈目標〉 課題についての先行研究を通して、自らの教育観を構築しつつ、研究構想をより確かなものにする事ができる。</p> <p>〈概要〉 ・継続的に複数の指導教員（研究者教員・実務家教員）によるゼミ形式の授業（個別指導とグループ・ディスカッション）により、教職キャリア発達に向けての継続的なメンタリング&コーチングを行うとともに、教育実践力形成に関わる個人及びグループの研究テーマを設定し、研究者教員および実務家教員の指導により、授業実践力と学級経営力、特別活動の指導力等の開発を行う。また、1年間の個人研究ポートフォリオをもとに自らの教師としての成長力を実感できるような教師としての学習モデルを確立させる。</p>	共同
		課題演習 I-3	<p>〈目標〉 課題について、自らの教育観に基づいた具体的な実践を提案・実践し、それらを考察することができる。</p> <p>〈概要〉 継続的に複数の指導教員（研究者教員・実務家教員）によるゼミ形式の授業（個別指導とグループ・ディスカッション）により、教職キャリア発達に向けての継続的なメンタリング&コーチングを行うとともに、教育実践力形成に関わる個人及びグループの研究テーマを設定し、研究者教員および実務家教員の指導により、授業実践力と学級経営力、特別活動の指導力等の開発を行う。また、1年間の個人研究ポートフォリオをもとに自らの教師としての成長力を実感できるような教師としての学習モデルを確立させる。</p>	共同
		課題演習 I-4	<p>〈目標〉 課題について、これまでの学びを統合し、その意義を捉え、他者に対して説明することができるとともに、今後解決すべき課題を見いだすことができる。</p> <p>〈概要〉 研究報告会において教育委員会、協力校、関係者および学部学生・院生に対して、2年間の学習成果としての授業開発プラン、学級経営プラン、教育連携プラン、教職ライフステージプランなどをプレゼンテーションする。また、研究報告会での質疑を通じて、研究と学習の成果を確認するとともに、今後の教員としての実践的課題を明らかにする。</p>	共同
課題演習	スクーラーリーダーコース	課題演習 II-1	<p>〈目標〉 学校教育現場から、課題を立ち上げ、学校の実態を正確に理解した上で課題を設定することができる。</p> <p>〈概要〉 複数の指導教員によるゼミ形式の授業により、個人研究テーマの下、課題の分析に必要なデータや事例を収集し、それらを多面的に分析することを通して、教科指導上の課題を特定する。また、特定した課題に関する先行研究を収集・分析・検討することを通して、研究可能な、適切な課題を設定する力を養う。</p>	共同
		課題演習 II-2	<p>〈目標〉 課題にふさわしい研究方法（課題解決策）を見出し、課題を具体的に達成するための計画を立てることができる。</p> <p>〈概要〉 複数の指導教員によるゼミ形式の授業により、個人研究テーマの下、設定した課題を解決するための研究方法を検討する。その際、検証の対象となる仮説の設定やその検証方法、期待する結果が得られないときの代案の検討など、研究計画を批判的・多面的に検討することを通して、実現可能な、適切な研究計画を立案する力を養う。</p>	共同

ステップ開発コース	課題演習Ⅱ-3	<p>〈目標〉 学校内の同僚・教職員や学校外の関係機関等と協働しながら課題解決にあたることができる。</p> <p>〈概要〉 複数の指導教員によるゼミ形式の授業により、個人研究テーマの下、設定した課題や研究計画に従って実践的研究を進める。その際、研究の進捗状況を適宜まとめたり、評価したりし、必要に応じて研究方法や研究計画の修正を行う。これにより、教科指導リーダーとしての自覚と自立に向けての客観的・相対的・分析的な自己理解と学校改善をリードする理論的・実践的なスキルの向上を図る。</p>	共同
	課題演習Ⅱ-4	<p>〈目標〉 自ら設定した課題から学校等の課題研究成果を実践研究報告へと集約し、課題演習報告書へと仕上げ、報告することができる。</p> <p>〈概要〉 複数の指導教員によるゼミ形式の授業により、個人研究テーマの下、各自が進めた実践的研究によって収集したデータを、教育実践の成果と課題としてまとめ、在籍校・協力校および教育委員会の関係者、他の院生を対象としてプレゼンを行い、評価のフィードバックを受ける。</p>	共同
教育実践力開発コース	TA実践インターンシップⅠ	学校における実習の導入として位置づけ、教育実践における研究課題を発見することに焦点をあてて、観察や調査を行う。前半は附属学校において授業分析、関与観察、リフレクション等の基礎に関わる能力の形成に焦点をあて、後半はTA実践インターンシップⅡ～Ⅳで配属される連携協力校において前半に形成した能力の強化に焦点をあけるとともに、TA実践インターンシップⅡ以降の基盤となる人間関係形成に取り組む。	共同
	TA実践インターンシップⅡ	連携協力校・協力校において毎週1日以上継続的にティーチング・アシスタント（TA）としての協働的な教育活動支援を行う中で、子どものニーズの理解（配慮を要する児童生徒を含む）や学級経営の課題、学級経営のスキル、信頼される教師としてのあり方等について“教室の事実”から実践的に学ぶ。なお、週5日間集中して実習を行う期間を設定して、課題演習における課題の実証授業を行う。	共同
	TA実践インターンシップⅢ	連携協力校・協力校において毎週1日以上継続的にティーチング・アシスタント（TA）としての協働的な教育活動支援を行う中で、子どものニーズの理解（配慮を要する児童生徒を含む）や学級経営の課題、学級経営のスキル、信頼される教師としてのあり方等について“教室の事実”から実践的に学ぶ。なお、週5日間集中して実習を行う期間を設定して、課題演習における課題の実証授業を行う。	共同
	TA実践インターンシップⅣ	連携協力校・協力校において毎週1日以上継続的にティーチング・アシスタント（TA）としての協働的な教育活動支援を行う中で、子どものニーズの理解（配慮を要する児童生徒を含む）や学級経営の課題、学級経営のスキル、信頼される教師としてのあり方等について“教室の事実”から実践的に学ぶ。なお、週6日間集中して実習を行う期間を設定して、課題演習における課題の実証授業を行う。	共同
	教育実践コラボレーション実習	附属幼稚園及び採用を志望する校種以外の連携協力校（小学校・中学校・高等学校）において、授業分析、関与観察、リフレクション等を行い、学習者の成長を俯瞰する一貫した教育の意義について体験的に理解する。	共同
	異校種実習	中学校または小学校における授業観察や教科指導実習を通して、教科指導における様々な工夫や指導方法についての理解を深める。	共同
	教科指導基礎実習	協力校の教務主任、研究主任の補助業務に従事することを通して、教科指導や研究指導の実務についての理解を深める。	共同
	教科指導向上実習Ⅰ	在籍校又は協力校における若手教員の指導教員を務めたり、校内研修を企画・実施したりすることを通して、教科指導に対する指導・助言等の実務を体験する。	共同
	教科指導向上実習Ⅱ	在籍校又は協力校の教務主任、研究主任の代理業務に従事することを通して、教科指導に対する指導・助言等の実務についての理解を深める。	共同
	授業研究実習	附属学校において、高度なレベルでの授業実践を行い、これまでの現職経験の中で培ってきた教科・授業の指導力を再考する。これらの活動を通じて、リーダー人材として求められる教科・授業の指導技術を自らが高めていくことの重要性を、人材育成の観点から捉えなおす。また、ミドルリーダーとしてのメンタリングの基礎を理解する。	共同

特別支援教育実践実習	特別支援教育を理解する上で欠かせない特別支援学級における、個別の教育支援計画、指導計画、それに基づいた個に応じた授業実践を、観察及びT Tとしての活動を通じて学ぶ。とりわけ知的障害児および発達障害児の特性理解や教育的ニーズを、アセスメントを通じ理解したうえで、教育実践を行い、これまでの授業実践を振り返る機会とする。	共同
学校カウンセリング実習A	適応指導教室等を定期的に訪問し、教育相談の視点から、相談・学習支援をはじめとする日常的な適応援助を行う。教育的ニーズのある個別のケースについて、スクールカウンセラーをはじめとする、学校内外の援助資源と連携し、チーム・アプローチの導入・展開の具体を学び、他の教職員と協働する力を育成する。	共同
学校カウンセリング実習B	適応指導教室等を定期的に訪問し、教育相談及び特別支援教育の視点から、相談・学習支援をはじめとする日常的な適応援助を行う。特別な教育的ニーズのある個別のケースについて、スクールカウンセラーをはじめとする、学校内外の援助資源と連携し、チーム・アプローチの導入・展開の具体を学び、他の教職員と協働する力を育成する。	共同
学校適応アセスメント実習	教育相談コーディネーター等、校内における学校適応支援の中核となる立場を想定し、連携協力校の通常学級に在籍する児童生徒個人を支援対象として、個人の適応状態・学力定着度・生活態度および学級集団の状態のアセスメントを実施し、結果の整理や分析を行い、学習指導や学級経営に活用できるレポートを作成する。また、学級担任をはじめとする関係者と連携しながら、個と集団に対し、学校適応促進に向けた支援に取り組む。これらをもとに、連携協力校職員に対し、子供の個人単位の情報整理手法を提案する。それにより、学校適応援助に関する研修会を開催し、人材育成に貢献する力量を高める。	共同
学校適応支援システム化実習	在籍校等において、学校等における1次～3次の援助サービス提供全般の改善策を提案し、具体的な取り組みを実践するとともに、若年層教員の児童生徒の学校適応促進に向けた支援を行う。学校外の教育支援機関（適応指導教室等）を訪問し、教育システムを体験して、学校での適応支援に活用できる点を検討する。学校適応援助のシステム化を促進させる研修会を開催し、人材育成に貢献する力量を高める。	共同
特別支援教育アセスメント実習	連携協力校の通級指導教室においてすぐれた指導に学び、特別支援教育コーディネーター等の立場を想定し、個人の適応状態・学力定着度・生活態度および学級集団の状態のアセスメントを実施し、結果の整理や分析を行い、個に応じた活用できるレポートを作成する。また、個別のケースでの自立活動の指導に加え、教科補充の指導に取り組む。対象児の保護者・在籍する通常学級担任・他の通級指導教室担当教員と連携したチーム・アプローチを体験し、関係者の協働のあり方を学ぶ。これらをもとに、連携協力校職員に対し、子どもの個人単位の情報整理手法を提案する。それにより、特別支援教育に関する研修会等を開催し、人材育成に貢献する力量を高める。	共同
特別支援教育システム化実習	在籍校等において、特別支援教育における1次～3次の援助サービス提供全般の改善策を提案し、具体的な取り組みを実践する。特別支援教育に関する、若年層教員等の支援力向上に資する取り組みを行う。学校外の教育支援機関（特別支援学校など）を訪問し、教育システムを体験して、学校での個別の指導や支援と環境調整に活用できる点を検討する。特別支援教育のシステム化を促進させる研修会を開催し、人材育成に貢献する力量を高める。	共同
教育連携コラボレーション実習	附属幼稚園・在籍校区校・協力校等での連携実習により、児童生徒の学びと成長に関する連携について体験的に理解する。	共同
学校組織マネジメント実習 I	連携協力校・協力校等において、リーダーシップに優れた校長、教頭、主任の下で、観察法による継続的なリサーチを行い、リーダーシップの源泉となる教育哲学・経営哲学、学校経営ビジョンづくりおよびその表明方法、教職員・保護者とのコミュニケーション等について実践的に学ぶ。また、ミドルリーダーとしての教育的リーダーシップやメンタリング・コーチングのスキルを修得する。	共同
学校組織マネジメント実習 II	在籍校における教科指導・学校経営・生徒指導に関する研究テーマについて、年間を通じて共同研究者の立場からフィールド・ワーク等による研究を継続し、その成果について、校内研修会や授業研究協議会および調査レポート等により還元し、その成果の実践的フィードバックを行う。教科教育および教科専門のスタッフとも連携し、授業教材の開発を図る。また、ミドルリーダーとしての教育的リーダーシップやメンタリング・コーチングのスキルを修得する。	共同
学校組織マネジメント実習 III	在籍校における教科指導・学校経営・生徒指導に関する研究テーマについて、年間を通じて共同研究者の立場からフィールド・ワーク等による研究を継続し、その成果について、校内研修会や授業研究協議会および調査レポート等により還元し、その成果の実践的フィードバックを行う。教科教育および教科専門のスタッフとも連携し、授業教材の開発を図る。また、ミドルリーダーとしての教育的リーダーシップやメンタリング・コーチングのスキルを修得する。	共同

(注)

- 1 開設する授業科目の数に応じ、適宜枠の数を増やして記入すること。
- 2 私立の大学若しくは高等専門学校の収容定員に係る学則の変更の認可を受けようとする場合若しくは届出を行おうとする場合、大学等の設置者の変更の認可を受けようとする場合又は大学等の廃止の認可を受けようとする場合若しくは届出を行おうとする場合は、この書類を作成する必要はない。

国立大学法人福岡教育大学 設置認可等に関する組織の移行表

令和2年度	入学 定員	編入学 定員	収容 定員	令和3年度	入学 定員	編入学 定員	収容 定員	変更の事由
福岡教育大学				福岡教育大学				
教育学部				教育学部				
初等教育教員養成課程	385	-	1,540	初等教育教員養成課程	385	-	1,540	
中等教育教員養成課程	170	-	680	中等教育教員養成課程	170	-	680	
特別支援教育教員養成課程	60	-	240	特別支援教育教員養成課	60	-	240	
計	615	-	2,460	計	615	-	2,460	
特別支援教育特別専攻科				特別支援教育特別専攻科				
特別支援教育専攻	20	-	20	特別支援教育専攻	20	-	20	
計	20	-	20	計	20	-	20	
福岡教育大学大学院				福岡教育大学大学院				
教育学研究科				教育学研究科				
教育科学専攻(M)	40	-	80		0	-	0	令和3年4月学生募集停止 研究科の専攻に係る課程の変更(事前伺い) 定員変更(10)
教職実践専攻(P)	40	-	80	教職実践専攻(P)	50	-	100	
計	80	-	160	計	50	-	100	